

首都圏電力不足問題の原子力発電に関する意識および節電行動への影響

Effects of a power shortage in the Tokyo Metropolitan area on awareness of nuclear power generation and power savings behavior

北田 淳子 (Atsuko Kitada)*

要約 東京電力の多数の原子力発電所が運転を停止したことにより、2003年夏首都圏で電力不足問題が発生した。その影響を検討するために、1993年から継続して実施している原子力発電に関する世論調査の一環として、2003年9月に関西電力供給地域（関西）と東京電力供給地域（関東）とで調査を行い、以下の結果を得た。

首都圏電力不足問題の認知度は高く、原子力発電所の運転停止が原因であることは関西で4割、関東で7割近くが認識していた。発電能力についての不足感はやや高まっていたが、関西のみならず関東においても、原子力発電に関する意識にはほとんど影響はなかった。電力不足問題を知ったときに、人々は、大停電が起こる見通しを五分五分程度に低く予測し、少し心配していた程度という楽観的受け止め方をしていた。

節電広報が積極的に展開されていた関東では、節電広報に接した経験は関西より顕著に高かった。節電広報への接触と節電行動との関係を数量化Ⅱ類で分析した結果、関東では節電広報に節電行動を促す効果があったことが示唆された。ただし、関東と関西で実行度の差はわずかであり、関東においても節電広報の効果は小さいといえる。

首都圏電力不足問題に関連して自由な感想や意見の記述を求めたところ、電力会社や原子力発電、発電方法、供給体制などの供給側の問題としての視点より、電力消費や節電など需要側の問題としての視点からの記述が多かった。首都圏電力不足は供給力の低下によって生じたものであるが、むしろ需要が多いことを問題として受け止めていたことが示唆された。

キーワード 原子力発電 世論調査 首都圏電力不足 影響 節電 広報の効果

Abstract The shutdown of a number of nuclear power stations of the Tokyo Electric Power Company in the summer of 2003 caused a power shortage problem in the Tokyo Metropolitan area. To examine the effects of the power shortage, in September 2003 a survey was conducted in the service areas of the Kansai Electric Power Company (Kansai region) and the Tokyo Electric Power Company (Kanto region). This survey was part of a wider opinion survey begun in 1993 concerning nuclear power generation. The results of the September 2003 survey are as follows:

The degree of recognition of the power shortage problem in the Metropolitan area was high, with 40% of respondents in the Kansai region and nearly 70% in the Kanto region understanding that the shortage was caused by the shutdown of several nuclear power stations. The overall awareness of nuclear power generation was little affected in both the Kansai and Kanto regions, though the sense of a shortage of the generating capacity had been raised slightly. Once respondents knew about the power shortage problem, they estimated the likelihood of an occurrence of large-scale service interruption to be low, nearly at an even chance, and they had been only slightly worried about it, essentially viewing the problem optimistically.

In the Kanto region, where public relations activities for power savings had been actively pursued, the frequency of experiencing exposure to such public relations activities was remarkably higher than in the Kansai region. The relation between exposure to public relations activities for power savings and power savings behavior was analyzed using quantification method II. Analysis results suggest that public relations activities for power savings in the Kanto region had the effect of urging power savings behavior. However, the difference in the rate of putting power savings behavior into practice was small between the Kanto and Kansai regions, indicating that public relation activities for power savings in the Kanto region, too, were not so effective. When asked for their impressions and opinions regarding the power shortage problem in the Metropolitan area, respondents provided fewer descriptions of supply side problems such as the power company itself, nuclear power generation, generating methods or supply systems, than of demand side problems such as power consumption or power savings. This suggests that, though the power shortage in the Metropolitan area had occurred as a result of a decrease in the supply capability, respondents saw the magnitude of demand as being the main problem.

Key Words nuclear power generation, opinion survey, power shortage in the Tokyo metropolitan area, effects, power savings, effects of public relations activities

* (株)原子力安全システム研究所 社会システム研究所

1. はじめに

2003年の夏、東電問題を受けて東京電力の多数の原子力発電所が運転を停止したことにより、東京電力供給地域において電力需要の高まる夏期ピーク時に供給力不足から停電が発生する可能性が高まった。停電を回避するため、東京電力供給地域では節電広報が積極的に展開された。電力不足と経済活動への影響の懸念、停電を回避するための取り組みなどは、首都圏の電力不足問題としてしばしば全国的に報道されていた。冷夏で冷房用需要が低かったこともあり、停電は回避され、同年9月には停電の危機を脱した。

原子力安全システム研究所では1993年以来、関西電力供給地域において原子力発電に対する世論の動向を把握するために、定期調査と原子力施設の事故後のスポット調査を実施している。得られた時系列データの分析からは、事故やトラブル隠しという原子力発電の安全性（危険性）にかかわる事態が原子力発電に対する態度に与えた影響が明らかになっている（松田,1998; 北田・林,2000; 北田,2003）。

これまでの継続調査では電力消費者を巻き込む電力不足の事態は経験がない。原子力発電所の運転停止に起因して発生した問題であることから、原子力発電に対する評価や態度に影響を及ぼす可能性がある。それらの影響を明らかにすることは重要である。

一般的に、省エネや節電広報は特定の地域だけに重点的になされることは少ない。また、さまざまな媒体による情報提供があるため、総量において節電広報の量が異なる大規模集団を比較できる状況は生じにくい。限られた被験者による実験条件下ではなく、一般公衆レベルで節電広報の量に差のある地域の節電行動を比較し、その効果を検討することは通常困難である。しかし、今回東京電力供給地域では、例年夏期に全国的に実施されている節電広報に加えて、多くの節電広報が投入されたため、他地域より節電広報の量が多い地域となっていた。この機会をとらえ、節電広報への接触と節電行動との関係を分析し、その効果を明らかにすることは有意義である。

本稿では、継続調査の一環として電力不足を乗り切った時点で実施した、関西電力供給地域と東京電力供給地域の意識調査データを中心に、これまでの時系列データとの比較を交えて、電力不足問題の影響と節電広報の効果を検討する。

2. 目的

本研究の目的は、以下の2つの分析から、電力不足問題の原子力発電に関する意識および節電行動への影響を明らかにすること、加えて、首都圏電力不足問題についての自由な意見・感想から、人々が首都圏の電力不足問題から何を感じ、どのような問題意識を持っていたのかを探ることである。

第1の分析では、原子力発電に関する意識への影響の有無を明らかにする。まず、今回の関西電力供給地域（以下「関西」という）のデータを、1年前である2002年の関西のデータと比較し、関西における影響を検討する。

東京電力供給地域（以下「関東」という）は、電力消費者として電力不足問題の当事者であり、関西より影響が大きい可能性がある。関東については比較できる近年の時系列データがないため、2003年の関西と比較する。なお、これまでの調査では関西と関東にエネルギーや原子力発電に関する意識に大きな違いはみられていない。今回の調査時点における関西との違いを分析し、関西における影響と総合して、関東の影響を検討する。

第2の分析では、節電行動への影響を明らかにする。関東では電力不足の状況を知らせ、具体的な節電行動をあげて、その実行を求める広報が行われており、関西とは節電広報の質と量の面で違いがあった。それら広報に節電行動を促す効果があったならば、関西と関東の節電行動に差が生じることが予想される。節電広報への接触と節電行動との関係について、関西と関東を比較することにより、節電広報が節電行動に及ぼした効果を検討する。

3. 方法

3.1 調査概要

調査は2003年9月26日～10月14日に関西と関東において実施した。今回の調査と時系列比較に用いる過去の調査の、実施時期、標本数および回収率を表1に示す。調査地域は関東と表記したものの以外はすべて関西である。いずれも対象者は18歳以上79歳以下男女、層別2段無作為抽出法、留め置き法により実施した。

表1 定期調査とスポット調査の概要

調査年月	種類	標本数	回収率
1993.1	第1回定期	1500	75.9%
1996.2	もんじゅ事故2ヵ月後	750	74.9%
1997.5	アスファルト固化施設事故2ヵ月後	750	71.1%
1998.7	第2回定期	1500	70.3%
1999.12	JCO事故2ヵ月後	750	70.9%
2000.10	JCO事故1年後フォローアップ	1500	70.4%
2002.11	第3回定期(東電問題後)	1500	70.7%
2003.9	電力不足問題後	1500	71.0%
"	" 関東	1500	71.1%

3.2 調査票の構成

継続調査の調査票は、原子力発電に対する態度、原子力イメージ、原子力発電に関する認識、電力会社等への信頼、エネルギー問題、環境問題、不安・リスク感、科学文明観、国民性（一般的信頼感、リーダー観、お化け・迷信関心等）、情報接触、回答者属性によって構成されている。

新たに、「でんき予報」への接触、首都圏電力不足問題の認知度、心配度、電力不足をもたらした最大原因の認識、自由記述を追加した。自由記述は、自由で自発的な意見や感想をとらえるために、「首都圏電力不足問題に関連して感じたり考えたことがあれば、なんでもご自由にお書きください」として記述を求めた。これらは、他の質問への影響を少なくするために、調査票の最後のほうに配置した。

さらに、最近半年間の節電広報への接触（以下「節電PA接触」という）と2003年夏の節電行動についての質問を追加した。これらは、首都圏電力不足問題を想起して回答されることを避けるために、調査票の最初のほうに配置した。おもな質問は本文末に掲載している。

3.3 回答比率の比較方法

第1の分析においては、時系列比較や地域比較などの2集団の比較を比率の差の検定によって評価する。検定対象には「その他」や「無回答」の比率、シールを配分する質問については各項目のシール枚数ごとの比率も含める。検定にあたっては、層別2段のサンプリング誤差の分散を単純ランダムサンプリン

グのそれに対して約2倍という経験値を用いて（鈴木、1991）、値を算出した。比率の差は、5%水準で有意な基準として近似値である2により評価した。

4. 第1の分析 原子力発電に関する意識への影響

4.1 結果

4.1.1 関西で2002年から有意に変化した項目

2002年と2003年で同一の質問選択肢892個のうち、比率差が5%以上で有意差があったのは表2の24個である。ただし、統計的検定では第一種の過誤の可能性があり、複数の質問や選択肢で一貫した傾向がみられるかなど総合的に慎重に評価しなければならない。

一般的な項目では、ふだんの情報源としてインターネットの増加、航空機の有用性評価が高くなっている。経済の混乱について「起こらない」が増加している。一番危険なこととして、自然災害をあげる人が増加している。具体的には自然災害としてほとんどが地震と記述しており、これは宮城県北部地震（2003.7.26）や、十勝沖地震（2003.9.26）の影響だと思われる。

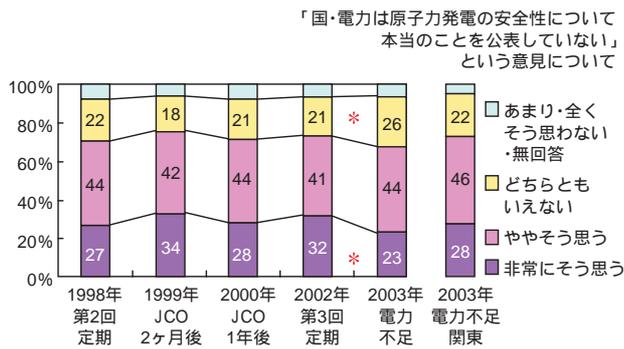
エネルギーや原子力関係では、東電トラブル隠しについて「よく覚えている」が54%から46%に低下している。この関連で解釈可能な変化として、国や電力会社は原子力発電の安全性について真実を公表していないという意見に「非常にそう思う」という強い不信感が32%から24%に低下している。図1の時系列推移をみると、2002年は東電問題発覚2ヶ月後であり、JCO事故や東電問題の影響で高いレベルで推移していた不信感が今回やや低下したものと推測される。原子力発電所の職場では安全運転が最優先目標になっているという意見に「そう思う」も74%から81%に増加している。

身近な不安として質問した原子力施設の事故の不安がやや低下し、原子力発電所の事故が「起こりそう」というリスク感も低下している。

電力供給に関しては、現在の日本の発電能力について「ちょうどよいくらい」が35%から29%に低下、「やや不足」が20%から30%に増加している。図2の時系列推移を見ると、2002年に減少していた不足感が増加している。10年後の日本の発電能力につい

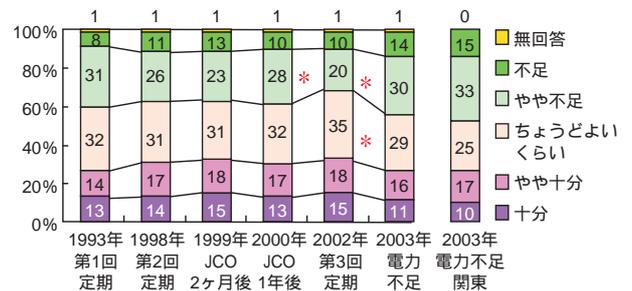
表2 関西地区2002年と2003年の有意差項目

分類	質問	選択肢	2002年	2003年	比率差	2	参考 2003年 関東(%)
			関西 (%)	関西 (%)			
一般的項目	ふだんの情報源	インターネット	17.8	24.2	6.4	5.00	28.5
		航空機の発達	21.7	27.2	5.5	5.27	24.4
	経済の混乱	起こらない	17.0	22.5	5.5	4.89	24.7
		起こりそう	46.8	38.4	-8.4	6.07	34.3
	一番危険	自然災害	29.4	43.8	14.4	5.91	50.1
		無回答	17.4	7.2	-10.2	4.03	10.7
都市ガス	利用していない	12.0	6.9	-5.1	3.58	19.9	
認知度	東電トラブル隠し	よく覚えている	53.7	46.1	-7.6	6.13	60.7
電力会社への信頼	国・電力は真実を公表していない	非常にそう思う	31.8	23.5	-8.3	5.49	27.7
		どちらともいえない	20.5	26.4	5.9	5.20	21.8
	安全運転が職場の最優先目標になっているか	そう思う	74.1	80.7	6.6	5.13	76.9
原子力発電への不安と安心	原子力施設事故(身近な不安)	かなり不安	23.5	18.1	-5.4	4.98	24.2
		チェルノブイリのような事故	48.3	42.0	-6.3	6.11	43.8
	原子力発電の安全性についての説明 フェイルセーフシステム	あまり安心できない	33.6	40.6	7.0	5.93	37.3
電力供給についての意識	現在の日本の発電能力	ちょうどよいくらい	35.2	28.6	-6.6	5.72	24.8
		やや不足	20.1	30.0	9.9	5.31	33.4
	10年後の日本の発電能力	十分	29.6	21.6	-8.0	5.35	24.5
		供給能力多少不安	62.5	70.1	7.6	5.80	66.2
	電力会社に望む対応(5つ選択)	会社の基本姿勢	43.4	51.3	7.9	6.13	50.9
低レベル放射線管理	37.1	45.2	8.1	6.04	48.2		
その他	プルトニウム	内容や意味知っている	19.2	26.9	7.7	5.17	27.1
		高レベル放射性廃棄物	聞いたこともない	18.0	12.1	-5.9	4.39
	自由化の影響	家庭料金安くなる	43.8	36.5	-7.3	6.01	35.6
		窓口などのサービス向上	23.6	18.5	-5.1	5.00	17.3



*印は有意差あり 2003年関西と関東有意差なし

図1 真実公表への不信



*印は有意差あり 2003年関西と関東有意差なし

図2 日本の現在の発電能力

ても同様の傾向がある。電力会社に望む対応として「会社の基本姿勢：もし大事故を起こせば地域被害にとどまらず日本中の原子力発電所を停止する事態となつて極端な電力不足におちいり、日本が経済的に破綻するとの危機感をもって事にあたる」が43%から51%に増加している。この内容は大事故発生という点では異なるが、原子力発電所の停止リスクとして、今回の電力不足に至った経緯に一部重なっており、共感されたのではないかと推測される。

4.1.2 2002年から変化のない項目

表2にあげた項目以外はすべて有意差がなかったということであるが、影響を検討する上で重要だと考えられるものに言及しておく。エネルギー問題の重要性認識(図3)、望ましい発電方法の選択、原子力発電の重要性評価、有用性評価、原子力発電の賛成意見(必要性意見)についての同意、データを提示して質問した原子力施設事故の不安、原子力発電の利用についての意見(図4)などに有意な変化はない。

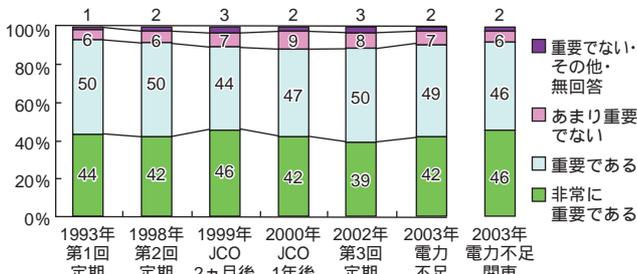


図3 エネルギー問題の重要性

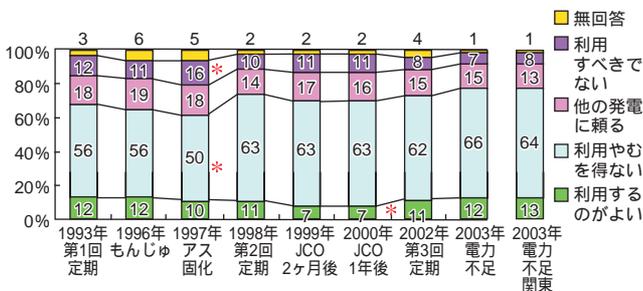


図4 原子力発電の利用についての意見

4.1.3 首都圏電力不足問題に対する認識

首都圏電力不足問題を「よく覚えている」は関西42%、関東67%で、関西でもある程度認知されており、関東では高いレベルにある(図5)。ただし、調査の1カ月半ほど前の8月14日に発生した北米カナダの大停電を「よく覚えている」は関西67%、関東74%である(表2)。海外で現実に発生した大停電の認知度よりは低い。電力不足を招いた最大原因として「原子力発電所の運転停止」を選択したのは関西38%に対し、関東62%で、原因の認識にも関西と関東では顕著な差がある(図6)。

首都圏電力不足問題を「覚えている」または「聞いたことがある」と回答した人には、付問として、首都圏で電力不足から大規模な停電が起こるおそれがあると聞いたときに実際に起こる可能性をどのくらいだと思ったか(図7)、どの程度心配していたか(図8)を質問した。「多分起こらない」は3割、「起こるかどうか五分五分」は4割であり、大停電の発生見通しに関西と関東で差はない。心配の程度は「ほとんど心配していなかった」は関西32%、関東24%、「少し心配していた」は関西44%、関東47%である。心配の程度は関東のほうがやや強いが、顕著な差ではない。

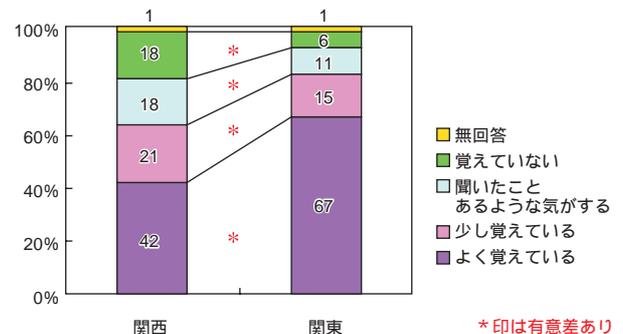


図5 首都圏電力不足問題の認知度

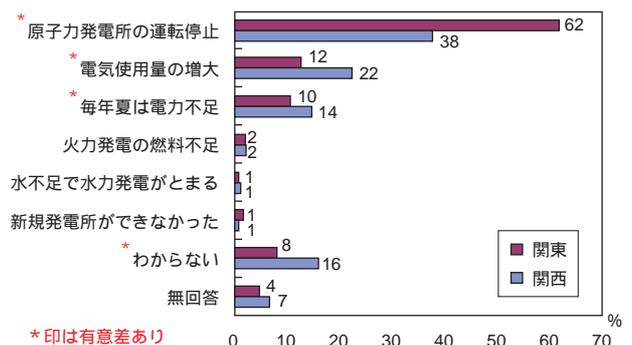


図6 首都圏の電力不足の最大原因

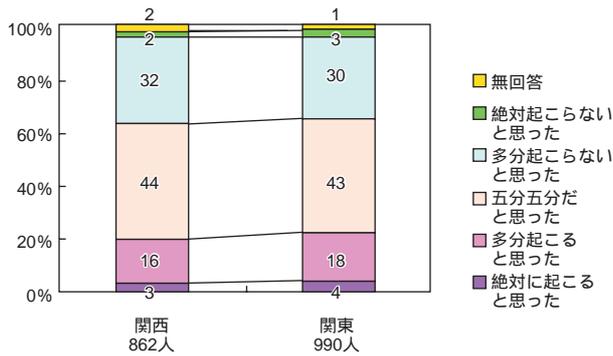


図7 電力不足による首都圏大停電発生の予測

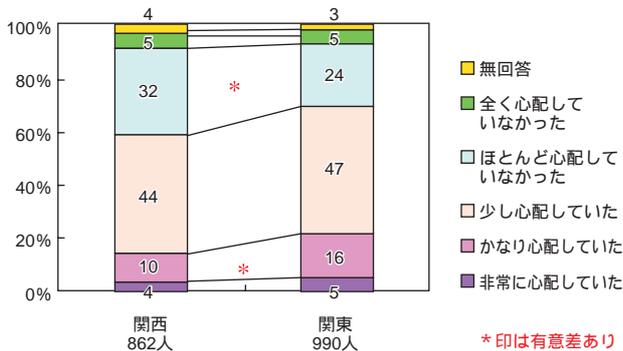


図8 電力不足による首都圏大停電の心配

4.1.4 関西と関東で差のある項目

関西と関東で同一の質問選択肢 979 個のうち、比率差が 5% 以上で有意差があったのは 43 個である。首都圏電力不足問題関係（認知度、原因認識、心配度）、節電広報への接触、節電行動における有意差項目は 20 個である。それ以外の 23 個を表 3 に示している。迷信の気になる程度や都市ガス「利用していない」における差は、これまでの継続調査でも関西の特徴として確認されている（北田，2004）。関東では関西よりも一番危険なこととして、交通事故をあげる人が少なく、自然災害をあげる人が多い。

地球環境問題に「関心がある」は関西 39% に対し、関東では 50% あり、関東のほうが関心が高い。エネルギーや原子力関係では、東電トラブル隠しを「よく覚えている」は関西 46%、関東 61% で、東電の不祥事はやはりその供給エリアでよく認知されている。北米カナダの大停電を「よく覚えている」も関西 67%、関東 74% で、関東のほうがやや高い。関東では停電への関心が高まっていたためではないかと推測される。原子力施設事故の不安は、関西では 2002 年より低下

表3 2003年の関西地区と関東地区の有意差項目(首都圏電力不足問題と節電関係を除く)

質問	選択肢	関西 (%)	関東 (%)	比率差	2	
一般的項目	仏滅の結婚式	たいへん気になる	23.4	29.2	-5.8	5.39
		全然気にならない	32.5	25.6	6.9	5.56
	友引の葬式	たいへん気になる	32.7	41.0	-8.3	5.91
		全然気にならない	23.8	18.7	5.1	5.01
	北枕	全然気にならない	47.3	40.9	6.4	6.08
		たいへん気になる	14.0	19.1	-5.1	4.56
	葬式の塩	少し気になる	39.9	48.9	-9.0	6.09
		全然気にならない	45.7	31.6	14.1	5.97
	都市ガスへの評点	利用していない	6.9	18.9	-12.0	4.10
	JRへの評点	5点	29.0	22.3	6.7	5.35
戦争	起こりそう	25.0	19.2	5.7	5.08	
	交通事故	31.8	22.5	9.3	5.45	
	自然災害	43.8	50.1	-6.3	6.12	
地球環境問題関心	少し関心ある	48.7	41.7	7.0	6.10	
	関心ある	39.2	49.8	-10.6	6.09	
認知度	東電トラブル隠し	よく覚えている	46.1	60.7	-14.6	6.11
		少し覚えている	30.1	24.0	6.1	5.45
	北米カナダの大停電	よく覚えている	66.9	74.1	-7.2	5.59
原子力発電への不安と安心	原子力施設の事故(身近な)	かなり不安	18.1	24.2	-6.1	5.01
電力供給についての意識	賛成意見	代われる発電方法ない	15.2	20.8	-5.6	4.71
その他	原発労働者イメージ	高い報酬	17.5	11.9	5.6	4.34
		聞いたことがある	55.2	61.4	-6.1	6.04
	使用済み燃料の中間貯蔵	聞いたこともない	30.9	23.3	7.6	5.45

していたが、関東は関西より高い。

電力供給についての意識では、原子力発電の賛成意見の1つ「日本での原子力発電による現在の発電量を考えると、近い将来に原子力発電に代わる発電方法はない」を支持したのは、関西15%に対し、関東21%で、関東のほうが高い。これは唯一電力不足問題との関連がうかがわれる内容であり、関東のほうが原子力発電の貢献を評価する方向にある。ただし、関西との差はそれほど大きなものではない。

その他では、原子力発電所労働者のイメージとして「高い報酬を得ている」は関西で、「使用済み燃料の中間貯蔵」という言葉の認知度は関東で高い。

4.1.5 関西と関東の比率の比較

関西と関東の回答の差の程度を把握するために、全ての質問選択肢について関西の比率と関東の比率をプロットした(図9)。質問選択肢は意味内容により5分類している。×印の認知度・広報接触の項目(具体的には首都圏電力不足とその最大原因、東電トラブル隠し、北米大停電の認知、節電PAとでんき予報の接触)は対角線から大きく乖離している。×印の節電実行度の項目は対角線付近に多く、やや離れているものがいくつかある程度である。エネルギー・電力に関する項目と原子力に関する項目は、対角線

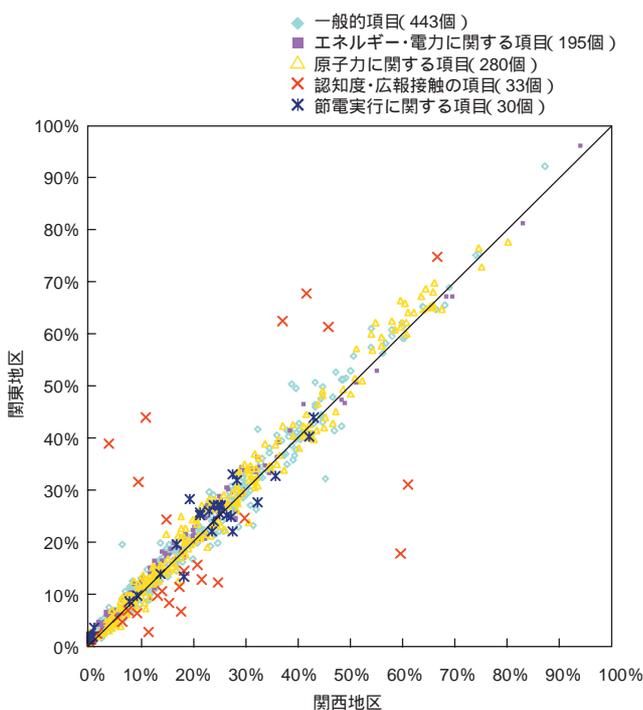


図9 関西と関東の回答比率の比較

から離れて分布しているものが一般的項目よりも少ない。つまり、関西と関東では、電力不足問題およびそれに関連する事柄の認知度と節電広報の接触度においてのみ、他の項目にはない顕著な差があり、エネルギー・電力や原子力に関する意識の面には差がないということ、また、節電実行度の差はわずかであることが確認できる。

4.2 考察

関西では首都圏電力不足問題について4割がよく覚えており、原子力発電所の運転停止が原因であることも4割弱が認識していた。関東の7割弱と6割強という数字に比べれば低い、かなりの程度認知されていた(4.1.3)。

関西の時系列比較からエネルギーや電力供給への意識に変化があるかどうかを検討した。電力不足問題の影響として予想されるのは、電力供給力や供給問題に関する認識と、不足をもたらした原因である原子力発電に関する認識である。前者に関しては、発電能力について不足感がやや高まっていた。ただし、エネルギー問題の重要性認識には有意なレベルの変化はないことが確認された。

後者に関しては、電力供給に占める原子力発電の比重の大きさから有用性評価を高める、反対に、原子力発電なしで乗り切ったことにより有用性評価を下げる、原子力発電に依存するリスクを意識させることなどが予想された。しかし、原子力発電の有用度や、賛成意見の1つである「現在の発電量を考えると、原子力発電に代わる発電方法はない」への支持、さらに、原子力発電の利用についての意見、いずれにも有意なレベルの変化はないことが確認された。原子力発電の依存リスクでは、「もし大事故を起こせば地域被害にとどまらず日本中の原子力発電所を停止する事態となって極端な電力不足におちいり、日本が経済的に破綻するとの危機感をもって事にあたる」ことを電力会社に望む意見が8ポイント増加している点に、影響がうかがわれた(4.1.1, 4.1.2)。

電力不足問題の当事者であった関東では、電力不足問題や原子力発電の運転停止が原因であるとの認識は関西より顕著に高く、運転停止の原因である東電のトラブル隠しの認知度も高かった。しかし、認知度では顕著な差があったにもかかわらず、エネルギーや原子力に関する意識には、電力不足問題の影響があまり見られなかった関西とほとんど差がない

ことが確認された。差が唯一あったのは、「現在の発電量を考えると、原子力発電に代わる発電方法はない」への支持が関西より数ポイント高かったのみである(4.1.4, 4.1.5)

以上から、関西のみならず関東においても電力不足問題は、電力の不足感をやや高めたものの、電力供給や原子力発電に関する意識にはほとんど影響しなかったといえる。その背景には、電力不足問題を知った人でも、大停電の発生は五分五分程度だと感じ、少し心配していた程度の楽観的受け止め方をしている人が多かったことがあると考えられる(4.1.3)。

7月、8月に低温が続く電力消費量が少ない状況で推移していたこと、電力不足による停電の危機を脱して1カ月あまりが経過し調査時点では記憶やインパクトが薄れていた可能性も否定できない。ただし、8月中旬に発生した北米カナダ大停電の認知度は、関東においても電力不足問題より高かった(4.1.3)。大停電が発生して事件となり市民生活の混乱の様子などが報道される場合とは異なり、可能性の問題であった首都圏電力不足問題はインパクトが低かったと推測される。

5. 第2の分析 節電行動への影響

5.1 結果

5.1.1 節電広報への接触

停電を回避するために、経済産業省資源エネルギー庁は、平成15年5月初旬より節電キャンペーンを開始し、電力需要の高まる夏期に向け6月初旬よりその内容を強化した。具体的には、「節電宣言」、「節電隊」のうち配布キャンペーン、節電イベントの開催、テレビCM、JR山手線吊革広告が実施された(資源エネルギー庁 2003)。東京電力は、テレビやラジオのCM、新聞広告、全家庭へのちらし配布を通じ、原子力の不祥事から原子炉の運転を停止し供給力不足を招いたことを詫言、具体的な節電方法を示して実行を呼びかけていた。加えて、6月23日から9月5日の間、テレビ・ラジオ・インターネットなどで、当日の供給力と需要予測を知らせて節電をお願いする「でんき予報」を実施していた。

調査では、節電PAへの接触として、最近半年間にテレビやラジオのコマーシャル、新聞広告、パンフレットなどで、節電を呼びかけているのを見聞きし

た程度を質問した。「ひんぱんに見聞きした」は関西11%、関東43%、「ややひんぱんに見聞きした」は関西15%、関東24%である(図10)。

でんき予報への接触として、首都圏電力不足問題とは関連付けずに、「今年の夏、東京電力はテレビやラジオ、インターネットなどで『でんき予報』として、翌日または当日に予想される最大電力と供給力をお知らせしていました。あなたは『でんき予報』を実際に見たり聴いたりしたことがありますか。」と質問した。関西では「知らない」60%、「知っていたが見たことはない」25%であるが、関東では「しばしば見た(聴いた)」38%、「見たことがある(聴いたことがある)」21%で、顕著な差がある(図11)。

投入された節電広報の差は、受け手における節電PAとでんき予報への接触度の差にあらわれている。

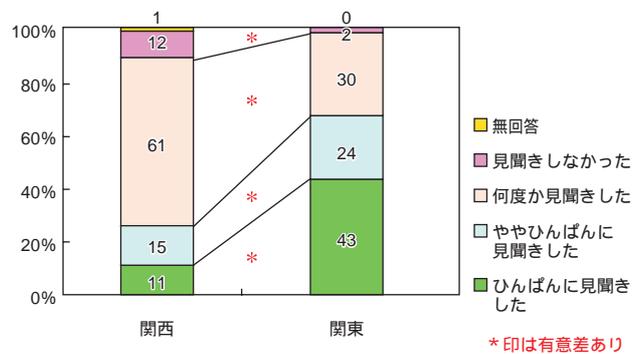


図10 節電PAへの接触

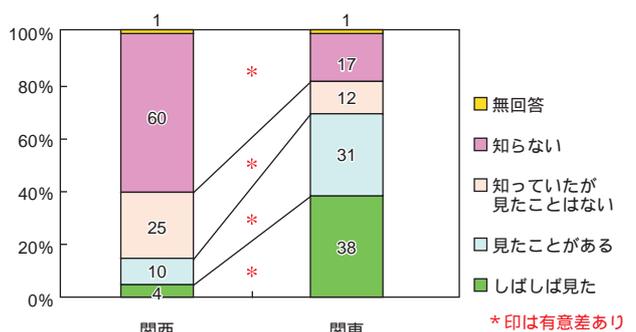


図11 「でんき予報」への接触

5.1.2 節電行動

節電広報で取り上げていた節電行動6項目について、「確実に実行」「だいたい実行」「少し実行」「実行しなかった」の4段階で回答を求めた。実行度が最も

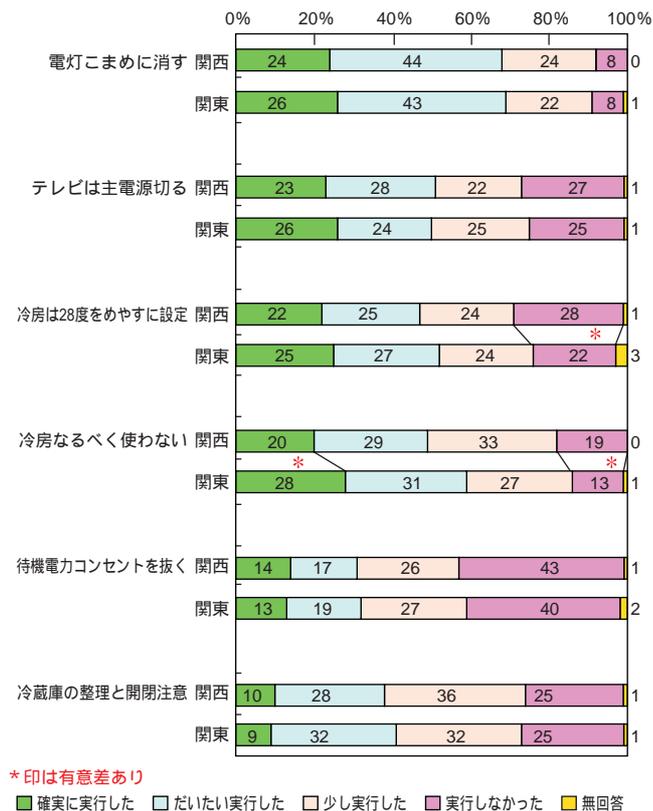


図12 2003年夏の節電の実行度

高いのは、電灯をこまめに消すことで、「確実に実行した」2割台、「だいたい実行した」4割台で、合わせて7割近い。実行度が低いのは、待機電力の無駄をなくするために電気製品のコンセントを抜くことで「確実に」と「だいたい」を合わせても3割強しかない。冷蔵庫の整理と開閉に注意することも実行度が低い。テレビは主電源を切ること、冷房は28度をめやすに設定すること、冷房なるべく使わないことは「確実に」と「だいたい」を合わせても5割前後である。実行度は高くない。

関西と関東で有意差があったのは冷房に関する2項目である。28度をめやすに設定することを「実行しなかった」は関西で6ポイント多く、冷房なるべく使わないことを「確実に実行した」は関東で8ポイント多い。有意差ではあるが、その差は小さい。

5.1.3 節電広報の効果の分析方法

節電広報に接触した程度（以下「広報接触」と略す）から、節電行動を実行したか実行しなかったかをどの程度予測できる（説明できる）のかを、数量化Ⅱ類を使って分析する。節電広報に効果があるならば、

広報接触を説明変数とした場合の相関比は高くなると思われる。ただし、個人の節電実行度に影響を及ぼすのは広報接触だけではない。エネルギーに対する意識や属性など他の要因も節電行動に関係していると考えられる。広報接触がこれらの他の要因と共変関係にあるならば、節電広報に実質的な効果がなくても見かけの相関比は高くなる。

数量化Ⅱ類では、要因の付加による相関比の上昇程度により、付加要因の偏相関的關係を知ることができる（林・樋口・駒沢，1970）。たとえば、説明変数群に新たな変数を追加した場合、追加した変数が既に投入されている変数と高い共変関係があれば、相関比は上昇しない。そこで、変数を順に追加して数量化Ⅱ類を実行した時の相関比の上昇を指標として、他の変数との共変関係による効果を除いても広報接触に説明力があるかどうかを検討する。

数量化Ⅱ類の外的基準変数には、節電行動6項目のうち4個以上を「確実に」か「だいたい」実行した人を高実行群、3個以下の人を低実行群とする分類を用いた（表4）。

説明変数には調査票に含まれている以下の質問を選定した。

エネルギーや電力供給についての意識として、①エネルギー問題の重要性、②停電が起こらないように余裕のある発電設備をもつことを重視する程度、③環境を重視して電力供給を減らすことを重視する程度、④大規模停電への不安を選定した。また、環境問題への関心が節電行動に影響していると考えられることから、⑤地球環境問題への関心、原子力発電に対する態度との関係を見るために⑥原子力発電の利用についての意見、⑦原子力発電の有用性評価を選定した。以上をエネルギー・環境意識に関する要因（A）とする。

表4 高実行群と低実行群における「確実に・だいたい」実行した比率

節電行動	高実行群 (%)	低実行群 (%)
電灯こまめに消す	96	51
テレビは主電源切る	84	28
冷房は28度をめやすに設定	79	29
冷房なるべく使わない	85	33
待機電力なくすためコンセントを抜く	65	10
冷蔵庫の整理と開閉注意	74	17

節電は日常生活における個人の行動であり、実践のしやすさには生活環境が関係すると考えられることから、属性要因（B）として、⑧職業と⑨年齢を選定した。性別については、実質的に職業が性別をかなりの程度反映するカテゴリーになっており、予備的分析において職業に性別を追加しても相関比の上昇に寄与しないため除外した。

さらに、心配度の要因（C）として、⑩首都圏大停電心配度を選定し、広報接触の要因（D）として、⑪節電PAへの接触と⑫でんき予報への接触を選定した。CとDの要因は首都圏電力不足に関連する要因である。

5.1.4 数量化Ⅱ類の結果 - 偏相関係数とカテゴリースコア

関西・関東それぞれで、1変数のみを説明変数とする場合と、A, B, C, Dの要因ごとにすべての変数を説明変数とする場合の相関比を表5に示している。相関比はいずれも低いので、外的基準である高実行群か低実行群かの予測に使えるレベルではないが、どの変数の説明力が相対的に高いかを示す指標になる。

相関比を比較すると、1変数のみの場合は、関西・関東いずれにおいても、職業（関西0.053，関東0.037）

と、地球環境問題への関心（関西0.028，関東0.037）が相対的に高い。さらに関東では関西と異なり、首都圏大停電心配度0.022，節電PAへの接触0.021，でんき予報への接触0.027であり、首都圏電力不足関連の変数も相対的に高い。

要因ごとに数量化Ⅱ類を行った場合のカテゴリースコアを表6に示している。カテゴリースコアは外的基準変数への効き方の方向と強さを示す。相関比が高い変数の効き方を以下で確認しておく。

関西・関東いずれも、地球環境問題に「関心ある」は高実行群的、「関心あまりない・関心ない」は低実行群的である。職業では主婦（無職）、主婦（パート）は高実行群的、自由業・管理職をはじめ有職者と学生は低実行群的である。年齢では60代以上が高実行群的である。

関東では、首都圏大停電「非常に・かなり心配していた」、節電PA「ひんぱんに見聞きした」、でんき予報「見たことがある」「しばしば見た」が高実行群的であり、首都圏大停電「ほとんど・全く心配していなかった」、節電PA「何度か見聞きした・見聞きしなかった」、でんき予報「見たことない・知らない」が低実行群的となっている。

以上より、関東においてのみ広報接触に相対的に高い説明力があり、その効き方は広報に接触してい

表5 数量化Ⅱ類の結果 相関比

要因	説明変数	説明変数の個数	関西	関東
A. エネルギー・環境意識	エネルギー問題重要性	1	0.011	0.011
	余裕発電設備保有を重視	1	0.003	0.003
	環境のため電力供給減らす	1	0.009	0.008
	大規模停電の不安	1	0.015	0.010
	地球環境問題への関心	1	0.028	0.037
	原子力発電利用についての意見	1	0.005	0.001
	原子力発電有用性	1	0.003	0.001
	Aすべての説明変数	7	0.051	0.055
B. 属性	職業	1	0.053	0.037
	年齢	1	0.016	0.011
	Bすべての説明変数	2	0.061	0.044
C. 心配度	首都圏大停電心配度	1	0.011	0.022
D. 広報接触	節電PAへの接触	1	0.009	0.021
	でんき予報への接触	1	0.003	0.027
	Dすべての説明変数	2	0.012	0.037

表6 要因ごとに数量化Ⅱ類を行った結果 カテゴリースコア

要因 変数	カテゴリー	関西		関東	
		構成比(%)	カテゴリー スコア	構成比(%)	カテゴリー スコア
外的基準変数	高実行群	37		42	
	低実行群	63		58	
A エネルギー問題重要性	非常に重要	42	0.2	46	-0.0
	重要	50	-0.1	47	0.1
	あまり重要でない	8	-0.5	7	-0.4
余裕発電設備保有を重視	0枚	22	0.2	20	-0.0
	1枚	25	-0.4	25	0.3
	2枚	26	-0.0	27	-0.2
	3~10枚	28	0.3	28	-0.1
環境のため電力供給減らす	0~1枚	12	0.0	12	-0.8
	2枚	29	-0.4	24	0.1
	3枚	37	0.2	38	-0.1
	4~5枚	23	0.2	26	0.3
大規模停電の不安	非常に不安	21	0.4	25	0.4
	かなり不安	27	0.5	27	0.4
	少しは不安・全く不安感しない	51	-0.4	49	-0.4
地球環境問題への関心	関心ある	39	0.7	50	0.6
	少し関心ある	49	-0.4	42	-0.4
	関心あまりない・関心ない	12	-0.8	8	-1.8
原子力発電利用についての意見	利用するのがよい	12	-0.1	13	0.0
	利用もやむを得ない	66	-0.1	65	0.0
	他の発電に頼る	15	0.3	14	-0.1
	利用すべきでない	7	0.5	8	-0.0
原子力発電有用性	非常に有用	30	0.2	35	-0.0
	有用	42	-0.0	40	0.1
	どちらとも有用でない	28	-0.2	26	-0.2
B 職業	農林漁業・商工サービス	9	-0.7	7	0.4
	自由業・管理職	11	-1.2	12	-1.5
	専門・技術職	13	-0.3	12	-0.8
	事務職	8	-0.4	9	0.1
	労務・技能職	8	-1.4	6	-0.6
	主婦(無職)	22	1.0	20	1.1
	主婦(パート)	9	0.8	10	1.0
	学生	5	-0.3	7	-0.7
	その他・無回答	14	0.7	17	-0.0
年齢	20代以下	20	-0.6	21	0.0
	30代	20	0.1	18	-0.0
	40代	17	-0.4	19	-0.6
	50代	21	0.3	19	-0.2
	60代以上	23	0.4	23	0.7
C 首都圏大停電心配度	非常に・かなり心配していた	12	2.5	21	1.4
	少し心配していた	37	-0.1	45	0.3
	ほとんど・全く心配していなかった	31	-0.8	27	-1.2
	電力危機知らなかった	20	-0.0	7	-1.5
D 節電PAへの接触	ひんばんに見聞した	11	1.8	44	0.6
	ややひんばんに見聞した	15	1.2	24	-0.2
	何度か見聞した・見聞きしなかった	74	-0.5	33	-0.7
でんき予報への接触	しばしば見た	4	-0.5	39	0.4
	見たことがある	10	1.3	32	0.5
	見たことない・知らない	86	-0.1	29	-1.1

た層のほうが高実行群であり、広報の効果と見なして矛盾のないものである。ただし、でんき予報については「しばしば見た」と「見たことがある」のカテゴリースコアは同程度であることから、でんき予報を見た頻度ではなく、見たことがあるか、知らないを含めて見たことがないかが分類に効いている。

5.1.5 数量化Ⅱ類の結果 - 説明変数の追加による相関比の変化

説明変数を順次追加して数量化Ⅱ類を行った場合の相関比を表7に示している。

関東の相関比の変化をみると、Aのエネルギー・環境意識0.055に、Bの属性0.044を追加すると、0.098に上昇する。関西でも同様に相関比はAとBの相関比の和にほぼなっている。つまり、属性による説明力はエネルギー・環境意識による説明力には吸収されない。

次に首都圏電力不足関連要因を加えて変化をみる。関西では(A+B)の一般的要因0.113に、Cの心配度を追加すると0.114、その上にDの広報接触を追加しても0.117にとどまり、相関比はほとんど上昇しない。しかし、関東では一般的要因0.098に心配度(0.022)を追加すると0.104、その上に広報接触(0.037)を追加すると0.123に上昇する。相関比の和ほどには上昇しないことから、一般的要因に吸収される部分もあるが、説明力はあがっている。

A+B+C+Dの全要因で数量化Ⅱ類を行った場合の偏相関係数を表8に示している。偏相関係数が大きい説明変数ほど外的基準変数に効くことを意味する。関西では、職業、地球環境問題への関心、大停電への不安が相対的に高く、首都圏電力不足問題関連は低い。一方、関東では、職業0.184、地球環境問題への関心0.133、年齢0.106が相対的に高いが、でんき予報への接触0.123、首都圏大停電心配度0.088、節電PAへの接触0.086もある程度高く、広報接触も分類に効いていることが確認できる。

つまり、関東では共変関係による効果を除いても、広報接触に説明力があるといえる。

表7 説明変数を追加して数量化Ⅱ類を行った結果の比較

要因	説明変数として用いる 要因のパターン	説明 変数の 個数	相関比	
			関西	関東
一般的要因	A(エネルギー・環境意識)	7	0.051	0.055
	B(属性)	2	0.061	0.044
	A+B	9	0.113	0.098
首都圏	C(心配度)	1	0.011	0.022
電力不足	D(広報接触)	2	0.012	0.037
関連要因	C+D	3	0.019	0.051
一般的要因 に心配度 を追加	A+B+C	11	0.114	0.104
さらに 広報接触 を追加	A+B+C+D	12	0.117	0.123

表8 全要因を説明変数として数量化Ⅱ類を行った結果 偏相関係数

説明変数	関西	関東
エネルギー問題重要性	0.061	0.016
余裕発電設備保有を重視	0.041	0.048
環境のため電力供給減らす	0.076	0.075
大規模停電の不安	0.087	0.051
地球環境問題への関心	0.090	0.133
原子力発電利用についての意見	0.054	0.050
原子力発電有用性	0.026	0.030
職業	0.238	0.184
年齢	0.068	0.106
首都圏大停電心配度	0.044	0.088
節電PAへの接触	0.037	0.086
でんき予報への接触	0.036	0.123
判別率	65%	65%

5.2 考察

節電広報が積極的に行われていた関東では、節電広報に接した経験は関西より顕著に高かった。しかし、節電行動は、冷房の使用に関して実行度がやや高かった程度で、関西とあまり差はなかった(5.1.1, 5.1.2)。

節電行動と広報接触の関係を数量化Ⅱ類で分析した。節電行動の高実行群と低実行群を分ける説明力は、地球環境問題への関心や職業が相対的に高いが、関東においては、首都圏電力不足問題の心配度や広報接触による説明力も相対的に高いことが確認された(5.1.4)。

しかし、広報接触と説明力の高い他の要因との間に「エネルギーや環境への関心が高いほど節電CMなどに気づきやすかった」「でんき予報は（情報提供の時間帯や方法から）主婦など家庭にいる層が見やすかった」というような共変関係があれば、広報接触の説明力が見かけ上高くなる可能性がある。この共変関係による効果を検討するために、エネルギー・環境意識、属性、首都圏電力不足心配度のすべての要因による説明力と、それらに広報接触の要因を加えた説明力を比較した。広報接触を加えると説明力があがることから、広報接触の説明力は他の要因に吸収されてしまうものではなく、共変関係による効果を除いても広報接触に説明力があることが確認された（5.1.5）。

以上により、関東では節電広報に節電行動を促す効果があったことが示唆される。ただし、実行度は関西とあまり差がなかったことから、その効果は小さなものであり、実行度に大きな差が生じるほどの効果ではないといえる。

節電を実行していたのは環境への関心の高い層であり、属性では主婦層、60代以上の高齢層が多いことがわかった（5.1.4）。これは、家庭で過ごす時間が長い層に重なる。生活時間の大部分において個人の裁量で節電行動をとりやすい生活環境かどうか要因として関係しているのではないかと推測される。主婦に多いことから、日常的な細かなことに注意を向ける、面倒がらずにまめに動くという性格が、また、高齢層ということからは節約や倹約を重視する価値観が要因として関係しているのではないかと推測することができる。

6. 首都圏電力不足についての意見・感想

6.1 結果

6.1.1 自由記述記入者の特徴

首都圏電力不足についての自由記述は任意記入であったが、関西で49%、関東で54%と多くの方が回答した。平均記入文字数は40字である。記入者群と無記入者群を比較すると、以下の項目で、数ポイントから十数ポイントの差の有意な差がある。記入者群には学歴では大卒が多い。新聞テレビニュースへの接触が高く、原子力についての知識も多い。環境や放射性廃棄物への関心が高い。国や電力会社の真

実公表への不信が高い。しかし、原子力発電への反対意見（必要性）だけでなく、賛成意見（必要性）への納得も高く、原子力利用態度などに差はない。これらは北田（2004）が男性の特徴として整理している内容に重なるものが多いが、男女に差はない。自由記述は調査対象集団全体を代表しているものではないが、知識や関心が相対的にやや高い層の意見・感想として参考にすることができる。

6.1.2 分類結果

自由記述データを問題意識や言及の対象によって、供給側の問題としての視点、需要側の問題としての視点、電気の価値に関する内容、今回の事態への感想、その他に大分類し、さらに、具体的内容で小分類した。複数の内容に言及している場合は、主に言及しているほうに、同等の場合には上段のカテゴリーを優先して分類した。地域別、原子力発電所の運転停止が原因との認識の有無別、節電行動の2分類別に集計した結果を表9に示している。

供給側の問題としての視点（関東13%、関西10%）は、需要側の問題としての視点（関東27%、関西25%）より少ない。中でも不祥事により電力不足を招いた電力会社を直接批判したのは関東22人、関西17人しかない。原子力発電について否定的なものは小分類の「否定的」と原子力以外でという意味を含む「他の発電方法に」を合わせると関東53人、関西44人、一方、「肯定的」も関東16人、関西8人と少ない。

需要側の問題としての視点では、「電力消費批判」が関東134人、関西101人、「節電推進」が関東98人、関西131人で、この2カテゴリーで大部分をしめる。「電力消費批判」では、企業、ネオン、自販機など他者をあげて電気の使いすぎ、無駄使いを指摘しているものも多い。批判には至らないが電力消費が多いという現状に言及しているものが関東37人、関西26人ある。「節電困難」という意見はごくわずかである。

原子力発電の運転停止が原因との認識の有無別でみると、認識なし群に無記入が56%と多いのが特徴であり、供給側の問題としての視点は4%と少ない。認識あり群では、供給側の問題としての視点は19%ある。しかし、それ以上に需要側の問題としての視点（24%）のほうが多い。

節電行動分類別では、高実行群と低実行群に大きな差はない。低実行群でも「電力消費批判」は少な

表9 首都圏電力不足問題についての自由記述分類結果

(人)

大分類	小分類	記入内容	地域		原子力発電所が原因と認識		節電行動	
			関東	関西	あり群	なし群	高実行群	低実行群
供給側の問題としての視点	電力会社批判	トラブル隠し関連の指摘・批判	22	17	38	1	9	30
		オール電化矛盾 早く対策取るべきだった 節電PAはおかしい	10	4	10	4	5	9
	原子力発電否定的	原子力依存を批判	4	9	13	0	5	8
		原子力発電なしでも供給可能 原子力推進のための策謀	11	4	14	1	4	11
		トラブル隠し関連の指摘・批判	12	8	19	1	10	10
	他の発電方法に	安全性・情報公開の要望など	6	7	12	1	7	6
		太陽光発電 分散型 自然エネルギー 環境にやさしい発電 安全な発電	20	16	28	8	9	27
	安定供給要望	不足がないように 電力間融通 電気を貯める技術開発, 時間差利用システムなど	24	30	30	24	21	33
原子力発電肯定的	原子力発電の実績・貢献・役割を評価 必要	16	8	22	2	12	12	
供給側その他		9	8	13	4	5	12	
供給側の問題としての視点		小計	134	111	199	46	87	158
			13%	10%	19%	4%	10%	12%
需要側の問題としての視点	電力消費批判	他者(企業 看板 ネオン 都市部 若者 24時間営業 コンビニビル, 自販機など)が電気を使いすぎ 頼りすぎ 無駄遣い	65	34	49	50	61	38
		一般論として 電気を使いすぎ 頼りすぎ 無駄遣い	69	67	54	82	57	79
	節電推進(電力消費の批判なし)	節電推進・必要・大切 節電で解決	81	110	92	99	81	110
		節電教育・節電PA・抑制策要望	17	21	22	16	12	26
	無関心・非協力を批判	無関心・節電に非協力を批判	10	3	9	4	4	9
	電力不足・停電容認・受容	不足・停電したほうがよい 停電やむをえない	5	5	6	4	4	6
	電力消費の現状(批判はなし)	電力消費多い・増加している 電気に頼っている 電気を使う機器普及	37	26	22	41	28	35
節電困難	節電困難	3	2	0	5	0	5	
需要側の問題としての視点		小計	287	268	254	301	247	308
			27%	25%	24%	28%	29%	24%
電気の価値に関する内容	電気の有用性	電気の有用性・大切さ	19	3	17	5	14	8
	停電	停電は不安・困る・大問題	48	46	55	39	35	59
電気の価値に関する内容		小計	67	49	72	44	49	67
			6%	5%	7%	4%	6%	5%
今回の事態への感想など	いい機会になった	エネルギー問題・節電のよい契機になったしたい	12	9	16	5	12	9
	節電実行した	停電せずにすんだ 節電実行した 節電で暑かった	15	7	15	7	6	16
	冷夏	冷夏で助かった	12	5	16	1	5	12
	無視・無関心	心配・懸念・関心なかった 騒ぎすぎ	17	23	17	23	16	24
今回の事態への感想など		小計	56	44	64	36	39	61
			5%	4%	6%	3%	5%	5%
その他		都市集中・首都集中批判 温暖化 経済への影響	15	29	18	26	18	26
		その他	19	25	28	16	18	26
その他小計			34	54	46	42	36	52
			3%	5%	4%	4%	4%	4%
無記入			488	539	424	603	388	639
			46%	51%	40%	56%	46%	50%
総計			1066	1065	1059	1072	846	1285

注：%は無回答を含めた総計を100とした比率

くはない。ただし、他者をあげた批判（38人）より一般論としての批判（79人）が多い。また、低実行群でも「節電推進」は136人、11%あり、高実行群の93人、11%と比べて、少なくはない。

6.2 考察

自由な感想や意見でも、不祥事により電力不足を招いた電力会社への批判は、関西のみならず関東においても、あまり表明されていなかった。原子力発電所の運転停止が原因であるとの認識は関東では7割近くあったが、原子力発電に依存することへの批判、原子力発電なしで乗り切ったことによる不要論、逆に、供給実績による有用論は多くなかった。これは人々が首都圏電力不足問題を原子力発電に強く結びつけて考えてはいなかったことを示唆している。

関東の人々は、電力不足から停電が発生すれば生活に支障が生じる当事者であったにもかかわらず、感想や意見は関西とほとんど変わらず、当事者意識を有していなかったと推察される。

電力不足の原因が、原子力発電所の運転停止という供給側の問題で生じたことを認識していた層においても、需要側の問題としての視点からの感想や意見が多かった。電力不足は供給と需要の不均衡であり、首都圏電力不足は供給力の低下によって生じたものであるが、むしろ需要が多いことを問題として受け止めていたことが示唆される。

需要側については、電力消費批判と節電関連の言及が多かった。電力消費の現状に対して問題意識をもつ人は少なくないことが示された。しかし、イルミネーションなど目につきやすいものを無駄だと指摘したり、企業が、若者が、あるいは都市部が使いすぎているというような、自分ではない他者への批判が多く、それ以外では一般論としての批判にとどまっていた。問題意識は自らの電力消費を顧みたものではなかった。

節電をあまり実行していない低実行群でも高実行群と同様に節電推進に多く言及していた。節電は必要、大切、節電で解決できる、節電教育やPAが大切だという意見を述べていても、節電広報で求められていた節電行動の実行を伴っているのではないことが示された。電力消費についての問題意識が、必ずしも自己の電力消費行動に反映されるには至っていないことが示唆される。

なお上記結果には、自由記述の回答者は知識や関

心が相対的にやや高い層であった（6.1.1）ことが、若干影響している可能性がある。

7. まとめ

第1の分析では、関西の時系列比較と関西・関東の地域比較によって、原子力発電に関する意識への影響を検討した。その結果、関西のみならず関東においても首都圏電力不足問題は、電力の不足感をやや高めたものの、原子力発電に関する意識にはあまり影響を与えなかったことがわかった。

電力不足を周知し節電を呼びかける広報が行われていた関東では、首都圏電力不足問題に関する情報量は関西とは当然異なっていたと思われる。関東と関西を比較すると、首都圏電力不足を覚えている程度や節電広報に接した記憶では顕著な差が認められた。しかし、情報量の差は認知や記憶の差に反映されるにとどまり、原子力発電に関する意識に差はなかった。北田（2004）はエネルギーや原子力に関する意識に全国と関西で差がなく、JCO事故の影響も関東と関西で異ならなかったことを明らかにしている。今回の調査結果は、エネルギーや原子力に関する意識の面では地域間の差は生じにくいことを再び確認するものともいえるだろう。

第2の分析では、節電広報への接触と節電行動の関係を数量化Ⅱ類で分析し、節電広報の効果を検討した。その結果、関東では節電広報に節電行動を促す効果があったことが示唆された。しかし、その効果は、関西と関東で実行度に明確な差が生じるほどのものではなかった。電力不足という状況下における必要に迫られた節電依頼であっても、その効果は小さいことがわかった。

最後に、首都圏電力不足問題に関する自由記述の分析結果から、上記の2つの分析結果の背景を考察する。

自由記述では、電力会社や原子力発電、発電方法、供給体制などの供給側の問題としての視点より、電力消費や節電など需要側の問題としての視点からの記述が多かった。首都圏電力不足は供給力の低下によって生じたものであるが、むしろ需要が多いことを問題として受け止めていたことが示唆された。結果的に停電は回避されたために、不祥事を受けた安全点検のための原子力発電所の停止という特殊要因で生じた、いわば一時的な供給力不足の問題よりも、現状の電力消費についての問題に人々の意識が向い

ていたのではないかと推測される。この調査ではエネルギー問題については主として供給の観点から質問している。人々の問題意識が需要側にあったということは、エネルギーや原子力発電に関する意識に影響がみられなかったという第1の分析結果とも整合する。

関東の人々は停電が発生すれば生活に支障が生じる当事者であった。にもかかわらず、関東においても、電力不足問題を知ったときに、大停電の発生は五分五分程度だと感じ、少し心配していた程度という楽観的受け止め方が多く、関西と大きくは異ならなかった。自由記述においても、不祥事から電力不足を招いた東京電力を直接批判する意見は少なかった。電力不足問題を深刻には受け止めておらず、当事者意識が乏しかったものと推察される。これが、関東でも影響がなかった背景要因の1つだと思われる。

自由記述で節電の必要性を述べる者は多かったが、そのような意見を表明している人でも、求められていた節電行動をよく実行していたわけではなかった。節電の必要性の認識が必ずしも実行を伴うものではないことが示唆される。首都圏電力不足問題は電力消費の現状に人々の目を向けさせた可能性はあるが、積極的な節電行動をとらせるには至らなかった。供給力不足を理由とした節電依頼という広報によって、意識ではなく日常行動を変容させることの難しさを示しているものと考えられる。

謝辞

本研究の統計解析に関して、貴重な助言をいただきました追手門学院大学松田年弘助教授に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 林知己夫・樋口伊佐夫・駒沢勉 1970 情報処理と統計数理 産業図書
- 北田淳子 2003 東電問題が公衆の原子力発電に対する態度に及ぼした影響 - 第3回定期調査 - *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, 10, 44-62.
- 北田淳子 2004 男女差と地域差 原子力安全システム研究所編 データが語る原子力の世論 プレジデント社, Pp118-155.
- 北田淳子・林知己夫 2000 東海村臨界事故が公衆

の原子力発電に対する態度に及ぼした影響

Journal of the Institute of Nuclear Safety System, 7, 25-44.

松田年弘 1998 原子力発電に対する態度変容について - 縦断的調査結果の分析 - *Journal of the Institute of Nuclear Safety System*, 5, 2-24.

鈴木達三・高橋宏一 1991 標本抽出の計画と方法 財団法人放送大学教育振興会

資源エネルギー庁 2003 「平成15年夏期の節電キャンペーン」開始について 平成15年6月23日付け プレスリリース

質問と集計

本論文と関係ある部分を掲載、回答率数字は左から、もしくは上から関西、関東とする。

問1 あなたはふだん新聞をよくお読みになりますか、それともあまりお読みになりませんか。

1	よく読むほう	33.1	34.7
2	やや読むほう	40.0	39.0
3	あまり読まないほう	26.6	26.1
	無回答	0.3	0.2

問2 あなたはふだんテレビでニュースや報道番組をよく見ますか、それともあまり見ませんか。

1	よく見るほう	47.5	52.0
2	やや見るほう	42.8	39.4
3	あまり見ないほう	9.4	8.5
	無回答	0.3	0.1

問3 あなたはふだん情報をどのようなものから得ていますか、次の中から当てはまるものをいくつでも選んでください。

1	新聞(朝日、読売、毎日等全国紙)	74.4	74.2
2	新聞(京都新聞等の地方紙、東京新聞等ブロック紙)	7.1	6.4
3	特定分野の業界紙	4.3	4.2
4	スポーツ新聞	13.7	11.6
5	夕刊紙(夕刊フジ、日刊ゲンダイ等)	5.2	3.6
6	テレビ	87.7	91.3
7	ラジオ	25.9	23.5
8	月刊誌	8.6	6.9
9	週刊誌・隔週誌	15.6	12.9
10	情報雑誌	8.6	9.3
11	特定分野の専門紙・雑誌	8.2	9.5
12	折り込み・チラシなど	30.5	28.4
13	駅・電車の車内広告	16.9	17.1
14	友人・知人の口コミ	33.3	32.0
15	行政機関が発行している小冊子など	8.2	7.2
16	パンフレットなど	9.7	8.2
17	インターネット	24.2	28.5
18	その他	0.7	0.6

問4 あなたは最近半年ほどの間に、テレビやラジオのコマーシャル、ポスター、新聞広告、パンフレットやチラシなどで、節電を呼びかけているのを見聞きしたことがありますか。

1	ひんばんに見聞きした	11.2	43.3
2	ややひんばんに見聞きした	15.1	23.8
3	何度か見聞きした	61.3	30.4
4	見聞きしなかった	11.8	2.1
	無回答	0.6	0.4

問5 最近、国内や国外、地球全体の環境問題がよく報道されています。あなたは、この問題にどの程度関心がありますか。

1	関心がある	39.2	49.8
2	少し関心がある	48.7	41.7
3	あまり関心がない	10.0	7.6

4	関心がない	1.6	0.8
	無回答	0.5	-

問6 こういう意見があります。「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になってくるが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1	賛成(人間らしさは減る)	33.5	35.6
2	いちがいにはいえない	60.7	58.4
3	反対(人間らしさ不変、増える)	4.9	4.6
4	その他()	0.4	1.1
	無回答	0.6	0.3

問8 私たちが社会生活を送っていく上で、いろいろ「危険なこと」が考えられます。次のような危険といったら何を思い浮かべますか。ア、イ、ウ、エのそれぞれについて具体的にお答えください。(回答略)

- (ア) 自然災害
- (イ) 自分ではどうすることもできなくて、思いがけなく巻き込まれる人為的災害(自然災害を除く)
- (ウ) 自分がしたいことをしたり、しなければならぬことをする時に、起きるかもしれない人為的危険(自然災害を除く)
- (エ) 今お答えいただいたものの中で、あなたが一番危険だと感じているものを1つだけお知らせください。

問7 あなたは今年の夏、次にあげた事柄をどの程度実行しましたか。

	確実に実行した	だいたい実行した	少し実行した	実行しなかった	無回答
(ア) 電灯はこまめに消す.....	24.2	43.5	24.0	8.1	0.8
(イ) 冷房はなるべく使わない.....	19.8	28.7	32.6	18.6	0.3
(ウ) 冷房の設定温度は28度をめやすに高めに設定する.....	27.6	31.4	27.1	12.9	0.9
(エ) 待機電力のムダをなくすために、使わないときは電気製品のコンセントを抜く.....	21.7	25.0	24.2	27.8	1.3
(オ) 冷蔵庫は中身を整理し、開ける回数は少なく、時間は短くする.....	25.1	26.5	23.6	21.6	3.2
(カ) テレビはつけっぱなしにせず、見ないときは主電源を切る.....	14.0	17.2	25.6	42.5	0.7
(キ) 台所で、食用油や食べかすを排水口から流さない.....	13.3	19.0	26.5	39.6	1.5
	9.6	27.8	36.1	25.4	1.1
	9.2	32.4	32.1	25.0	1.4
	23.3	27.5	21.8	26.8	0.7
	25.5	24.4	24.6	24.7	0.8
	49.5	25.6	12.2	11.8	0.8
	50.8	26.8	12.2	8.5	1.6

問9 時々、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。あなたは、次のような危険について不安を感じるがありますか。

	非常に感じる	か感じる	少し感じる	まったく感じない	その他	無回答
(ア) まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか.....	27.4	27.9	38.4	5.5	0.4	0.4
(イ) では、「交通事故」についてはどうでしょうか.....	26.2	26.1	40.7	5.8	0.5	0.8
(ウ) では、「失業」についてはどうでしょうか.....	30.1	37.7	29.7	1.7	0.3	0.5
(エ) では、「戦争」についてはどうでしょうか.....	28.2	35.9	32.6	2.3	0.4	0.7
(オ) では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか.....	16.8	21.0	40.9	14.8	4.5	1.9
	15.9	19.2	40.2	17.5	5.5	1.7
	18.0	20.3	43.6	15.7	1.4	1.0
	18.2	16.3	45.8	16.6	1.9	1.2
	18.7	18.1	46.9	13.8	2.1	0.4
	19.3	24.2	42.3	11.9	1.5	0.8

問15 次にあげることは今後25年の間に実現すると思いますか。ア～エのそれぞれについてお答えください。

	たぶん実現する	実現する可能性は低い	実現しない	その他	無回答
(ア) まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法(永久処分技術)」についてはどうですか.....	29.0	49.0	17.3	3.8	0.8
(イ) 「ガン治療法の解明」についてはどうですか.....	33.0	48.7	14.2	3.4	0.8
(ウ) 「老人性痴呆症(ぼけ)の治療法の解明」についてはどうですか.....	64.3	27.4	6.1	1.7	0.5
(エ) 「宇宙ステーションでの生活」についてはどうですか.....	64.6	28.1	5.3	1.3	0.6
	34.9	46.9	15.4	2.2	0.6
	36.6	47.3	13.5	2.1	0.6
	23.2	40.1	33.3	2.9	0.5
	26.6	37.2	32.1	3.4	0.7

問10 こういう意見があります。「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ(人間らしさ)は減りほしくない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1 反対(減る)	24.4	27.5
2 いちがいにはいえない	56.6	55.6
3 賛成(減らない)	17.2	14.9
4 その他()	1.2	1.1
無回答	0.6	0.8

問11 自然と人間との関係について、次のような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(ほんとうのことに近い)と思うものを、1つだけ選んでください。

1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない	35.2	33.8
2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない	60.4	61.4
3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない	3.2	3.8
無回答	1.2	1.1

問12 コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

1 望ましいことである	21.0	22.3
2 望ましいことではないが、避けられないことである	66.9	63.9
3 困ったことであり、危険なことでもある	6.6	5.9
4 その他()	4.1	6.8
無回答	1.4	1.0

問13 「原子力」といったら、何を連想しますか。自由にお答えください。(回答略)

問14 次にあげるア～ウの事柄についてあなたはどう思いますか。それぞれについてお答えください。

(ア) 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある

1 まったくそのとおりだと思う	15.8	15.0
2 そう思う	57.2	57.6
3 そうは思わない	18.6	18.2
4 決してそうは思わない	5.3	4.9
5 その他()	2.1	2.6
無回答	1.1	1.7

(イ) 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる

1 まったくそのとおりだと思う	1.9	1.7
2 そう思う	9.0	7.0
3 そうは思わない	58.4	59.0
4 決してそうは思わない	29.0	30.0
5 その他()	0.8	1.1
無回答	0.9	1.1

問16 次にあげる事柄は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか。ア～オのそれぞれについてお答えください。

	非常に重要	重要	どちらでもない	あまり重要でない	重要でない	無回答
(ア) 航空機(旅客用)の発達.....	8.9	29.6	28.5	24.3	8.3	0.5
(イ) エイズ問題.....	9.1	28.8	27.9	24.0	9.8	0.5
(ウ) 原子力発電.....	23.4	39.3	21.8	11.9	3.0	0.6
(エ) 臓器移植.....	25.0	35.2	24.9	9.9	4.3	0.7
(オ) 身近な環境保護.....	18.0	42.5	28.7	7.2	2.5	0.9
(カ) 身近な環境保護.....	22.0	41.9	27.0	6.4	1.9	0.8
(キ) 身近な環境保護.....	19.4	39.2	28.5	9.1	2.8	0.9
(ク) 身近な環境保護.....	19.3	37.9	29.9	8.0	3.7	1.2
(コ) 身近な環境保護.....	45.2	44.9	7.7	1.2	0.5	0.6
(サ) 身近な環境保護.....	42.5	46.8	8.9	1.1	0.2	0.5

問17 では、これらの事柄は、今日の社会や人々の生活にとってどのくらい有用だと思いますか。ア～オのそれぞれについてお答えください。

	非常に有用	有用	どちらでもない	あまり有用でない	有用でない	無回答
(ア) 航空機(旅客用)の発達.....	27.2	50.3	15.2	5.4	1.1	0.7
(イ) エイズ治療法.....	24.4	52.2	15.9	5.5	1.6	0.5
(ウ) 原子力発電.....	48.7	40.8	8.1	1.5	0.3	0.7
(エ) 原子力発電.....	50.6	39.2	8.1	1.2	0.5	0.5
(オ) 原子力発電.....	30.1	41.5	21.3	4.2	1.9	0.9
(カ) 原子力発電.....	34.4	39.7	20.7	2.4	2.3	0.5
(キ) 原子力発電.....	39.8	39.8	15.2	3.5	1.0	0.7
(ク) 原子力発電.....	41.2	35.9	18.3	2.0	2.1	0.6
(コ) 原子力発電.....	60.7	33.2	5.0	0.6	-	0.6
(サ) 原子力発電.....	61.0	33.1	5.0	0.5	0.2	0.3

問18 次にあげる事故や事柄についておたずねします。ちなみに統計によれば、これらの事故による我が国の1992年から最近10年間の死者数は下記のようになっています。

	10年間死者数
(ア) 道路交通事故	99,303人
(イ) 列車・電車事故(踏切事故を含む)	3,537人
(ウ) 新幹線事故	1人
(エ) 大型航空機事故	268人
(オ) エイズ	1,254人(1989年以前と2002年3月まで含む)
(カ) 原子力施設の事故	2人

統計数字は上のとおりですが、これとは別にあなたの気持ちに即してお答えください。それぞれについてどの程度不安を感じていますか。

	非常に感じる不安	かなり感じる不安	少しは感じる不安	全く感じない不安を	その他	無回答
(ア) 道路交通事故.....	43.4	37.1	18.5	0.5	0.1	0.5
(イ) 列車・電車事故(踏切事故を含む)...	42.3	38.7	17.8	0.7	0.2	0.3
(ウ) 新幹線事故.....	10.7	26.1	54.4	7.8	0.5	0.6
(エ) 大型航空機事故.....	9.8	21.6	60.3	7.3	0.6	0.4
(オ) エイズ.....	6.3	13.1	50.9	28.3	0.8	0.7
(カ) 原子力施設の事故.....	6.3	11.3	55.2	25.6	1.2	0.5
(キ) 原子力廃棄物の処理・処分.....	14.3	27.8	49.1	7.5	0.3	1.0
(ク) 身近な環境破壊.....	15.5	24.3	50.6	8.1	0.8	0.8
(コ) 身近な環境破壊.....	17.6	22.8	40.7	16.8	1.0	1.1
(サ) 身近な環境破壊.....	17.4	20.4	42.3	17.7	1.5	0.8
(シ) 身近な環境破壊.....	20.2	28.0	43.5	7.3	0.5	0.6
(ス) 身近な環境破壊.....	23.6	28.7	39.2	7.1	0.8	0.5
(セ) 身近な環境破壊.....	24.6	32.0	34.9	6.8	0.5	1.2
(ソ) 身近な環境破壊.....	27.6	31.6	34.1	5.3	0.9	0.5
(タ) 身近な環境破壊.....	31.8	39.8	25.6	1.9	0.1	0.8
(チ) 身近な環境破壊.....	31.2	39.7	26.1	1.8	0.3	0.9

(ウ) 今日我々が直面している経済的・社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される

1	まったくそのとおりだと思う	0.7	0.9
2	そう思う	6.6	6.4
3	そうは思わない	68.5	64.7
4	決してそうは思わない	22.8	25.4
5	その他()	0.7	1.3
	無回答	0.8	1.2

問19 次のようなことが日本で起こる可能性はどのくらいだと思いますか。

(ア) 戦争

1	起こらない	29.8	31.7
2	起こりそう	25.0	19.2
3	どちらともいえない	45.2	49.1
	無回答	0.1	-

(イ) チェルノブイリのような原子力発電所の重大事故

1	起こらない	12.1	12.7
2	起こりそう	42.0	43.8
3	どちらともいえない	45.7	43.2
	無回答	0.2	0.3

(ウ) 預貯金が無価値になるような経済の混乱

1	起こらない	22.5	24.7
2	起こりそう	38.4	34.3
3	どちらともいえない	39.0	40.8
	無回答	0.1	0.2

問23 最近ではエネルギーの問題が話題になることがしばしばあります。あなたご自身は、このことは重要な問題だと思いますか。

1	非常に重要である	41.8	45.6
2	重要である	49.0	46.4
3	あまり重要でない	7.0	6.5
4	重要でない	0.7	0.5
5	その他()	0.7	0.5
	無回答	0.8	0.6

問24 現在の日本の発電能力は十分だと思いますか、それとも不足していると思いますか。

1	十分	11.2	10.1
2	やや十分	15.9	16.9
3	ちょうどよいくらい	28.6	24.8
4	やや不足	30.0	33.4
5	不足	13.8	14.8
	無回答	0.6	0.1

問25 それでは、10年後を考えた時、日本の発電能力は需要をまかなうだけの供給ができると思いますか、それともそうは思いませんか。次にあげるもののうち、1つをつけてください。

1	十分まかなうことができると信じている	21.6	24.5
2	供給能力に多少不安を感じる	70.1	66.2
3	現状からみて供給できそうにないので、不安を強く感じている	7.9	8.9
	無回答	0.4	0.4

(ケ) 地球規模の環境破壊	38.6	34.9	22.3	2.7	0.5	0.9
	39.8	37.3	20.4	1.2	0.5	0.8
(コ) 大規模な停電	21.1	27.1	39.4	11.2	0.6	0.6
	24.4	26.3	41.8	6.6	0.4	0.6

問20 次にあげる「雪男」から「鬼」まで1つ1つについて、あなたはどんな感じを持ちますか。1～8の言葉をよくご覧になって、「雪男」から「鬼」まで、それぞれについて、あなたの気持ちに最もピッタリする言葉を1～8の中から1つずつ選んで、その番号に をしてください。

	つまらない	いあってほしい	いる・ある	こわい	おそろしい	いてほしくない	あつてほしい	たのしい	いばなしい	こわくない	おそろくない	無回答						
(ア) 雪男	17.1	12.1	4.8	5.4	8.5	15.6	30.8	4.7	1.0	13.9	12.2	5.1	3.9	10.9	16.8	30.5	4.9	1.9
(イ) ネッシー	13.1	23.8	6.2	1.2	4.1	24.8	23.4	1.9	1.5	10.5	25.5	6.6	1.1	5.3	22.5	24.0	2.4	2.0
(ウ) 空飛ぶ円盤・宇宙人	9.0	16.7	22.5	4.2	10.0	18.4	15.6	2.1	1.5	7.5	19.1	21.7	4.8	10.2	15.6	17.4	2.0	1.8
(エ) 幽霊・亡霊	7.7	3.0	23.3	21.7	19.1	2.9	17.9	3.4	1.0	7.7	2.5	21.8	22.2	20.5	4.4	16.4	3.2	1.2
(オ) カッパ	12.1	13.6	4.8	2.2	7.0	27.7	28.5	3.1	1.0	10.3	14.2	3.3	2.0	8.1	30.3	27.8	3.0	1.1
(カ) 妖怪	11.7	6.4	3.7	11.0	15.6	14.1	33.6	2.6	1.3	10.7	6.8	3.0	9.7	17.4	16.3	31.7	2.6	1.9
(キ) 超能力・念力	8.5	19.9	32.0	2.5	4.7	17.5	12.9	0.8	1.1	8.3	18.9	32.1	2.7	4.7	16.9	13.2	1.4	1.8
(ク) 人のたたり	7.9	1.6	18.5	23.1	31.3	1.0	14.6	1.5	0.6	6.8	0.8	18.3	24.4	29.3	0.8	16.6	1.7	1.3
(ケ) 人をのろい殺すなどの怨霊	8.4	1.2	10.1	24.4	34.6	0.6	18.6	1.5	0.6	6.8	0.7	11.0	26.3	32.8	1.1	18.8	1.4	1.2
(コ) 過去や未来へ行けるタイムマシン	7.3	38.0	1.6	1.3	8.1	29.6	12.3	0.6	1.2	5.6	36.3	1.8	1.7	6.8	31.9	14.3	0.4	1.2
(サ) 龍	9.7	20.9	4.5	7.3	8.2	17.7	26.5	4.9	0.4	9.5	21.4	4.6	5.5	8.3	18.0	26.0	5.4	1.2
(シ) 鬼	10.8	7.1	3.9	14.1	17.2	11.7	30.2	4.6	0.3	9.8	6.1	3.7	13.3	17.7	12.7	30.8	5.0	1.0

問21 あなたは、次にあげるような事柄がふだん気になりますか、それとも気になりませんか。アから順にそれぞれについてお答えください。

	たいへん	気になる	すこし	気になる	ぜんぜん	気にならない	無回答	
(ア) 仏滅の日に結婚式をあげる	23.4	43.8	32.5	0.4	29.2	45.1	25.6	0.1
(イ) 友引の日に葬式をする	32.7	43.0	23.8	0.6	41.0	40.2	18.7	0.1
(ウ) 悪い方角に移転する	31.8	40.7	27.1	0.4	32.2	40.8	26.6	0.4
(エ) 命名する時の字画の数	24.3	44.9	30.4	0.4	25.2	43.8	30.8	0.2
(オ) 三隣亡の日に家を建てる	27.2	42.0	30.3	0.5	29.2	40.2	30.1	0.5
(カ) いやな夢を見る	15.7	58.4	25.4	0.5	17.9	60.1	21.4	0.6
(キ) 北に頭を向けて寝る	15.9	36.4	47.3	0.4	18.9	40.0	40.9	0.3
(ク) 葬式から帰った時に塩をまくことを忘れた	14.0	39.9	45.7	0.4	19.1	48.9	31.6	0.4

問28 電力の供給をふやせば、経済のゆとりや快適な生活ができるが、公害や環境汚染、自然破壊がそれに伴います。電力の供給をふやさなければ、公害や環境汚染、自然破壊が抑えられますが、経済力が低下し生活の不便を我慢しなければならなくなります。この点についてあなたのお考えをお聞かせください。

ここにある5枚のシールを、あなたの気持ちに応じてA、B2つの意見にふりわけ、下の枠内にはりつけてください。

A：ある程度の公害や環境汚染・自然破壊がともなうことがあっても、経済のゆとりや快適な生活のため、電力供給をふやす。

平均枚数 2.23枚 2.14枚

B：公害や環境汚染・自然破壊を抑えるため、経済力が低下し生活の不便を我慢しなければならなくなるとしても、電力供給をふやさない。

平均枚数 2.76枚 2.85枚

無回答 0.4 0.4

問29 あなたは、原子力発電の方法や、長所・短所など、原子力発電について知っているほうだと思いますか、知らないほうだと思いますか。

1 知っているほうだと思う 16.5 15.3
 2 知らないほうだと思う 64.1 64.0
 3 どちらともいえない 18.6 20.3
 無回答 0.8 0.5

問30 あなたは原子力発電についてどんなことをもっと知りたいと思いますか。知りたいことを次の中からいくつでも選んでその番号に つけてください。

1 メカニズム・しくみ 33.1 35.6
 2 必要性 28.6 29.5
 3 経済性 20.1 19.0
 4 安全性 74.9 75.8
 5 過去の故障・事故についての情報 32.5 33.4
 6 事故が発生した場合の防災体制 61.1 61.4
 7 放射能の影響 62.5 63.4
 8 使用済み燃料や廃棄物の処理・処分対策 59.9 65.7
 9 原爆との違い 24.0 22.7
 10 発電所所在地の地域振興 10.8 13.0
 11 その他 0.8 0.8
 12 特に知りたいことはない 4.1 4.3

問31 原子力発電は、不足することなく確実に電気を供給することに役立っていると思いますか、それとも役立っていないと思いますか。

1 非常に役立っている 17.6 20.7
 2 かなり役立っている 56.3 58.5
 3 少し役立っている 23.0 18.4
 4 ほとんど役立っていない 2.0 1.5
 5 まったく役立っていない 0.5 0.2
 無回答 0.7 0.7

問22 次にあげた公共性のある事業に、あなたは一口に言ってどういう感じを持っていらっしゃいますか。10点満点評価でお答えください。それぞれの事業について当てはまる数値のところに つけてください。

	ぜんぜんだめからとてもよいまで										利用していない	NA	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			10
(ア)NTT	1.9	1.4	2.6	4.7	5.4	29.9	7.6	13.1	17.0	6.2	8.6	0.7	0.9
(イ)都市ガス	2.5	1.2	3.1	5.3	6.3	28.0	7.9	12.7	15.1	5.4	10.6	0.8	1.0
(ウ)上下水道	0.8	0.2	1.3	1.5	3.4	26.9	8.5	13.3	17.2	7.0	12.2	6.9	0.8
(エ)上下水道	1.1	0.9	0.7	2.3	2.6	24.4	7.0	11.4	15.6	4.8	9.4	18.9	0.9
(オ)電力	1.3	1.5	3.0	3.9	4.1	28.2	8.9	14.2	14.8	7.9	10.8	0.6	0.8
(カ)JR	1.3	0.8	1.9	4.8	5.3	27.6	9.5	11.9	15.9	8.0	10.6	1.4	1.1
(キ)電力	0.8	0.4	1.1	2.4	4.0	25.0	8.8	14.1	19.0	8.7	14.9	—	0.8
(ク)JR	1.0	0.9	1.8	4.0	5.3	23.7	9.6	13.2	16.2	9.0	13.7	0.3	1.2
(ケ)JR	1.2	1.2	2.6	3.4	7.2	29.0	10.9	13.7	13.7	7.0	6.7	2.6	0.7
(コ)JR	1.3	0.8	3.7	5.2	6.1	22.3	11.6	14.2	14.3	6.5	8.5	4.5	1.1
(カ)ごみ処理	3.1	1.8	4.5	8.5	8.6	24.6	8.2	11.6	12.5	7.0	8.7	0.1	0.7
	2.7	1.5	2.8	7.1	6.5	20.8	10.3	14.3	14.0	6.5	12.1	0.6	0.8

問26 それぞれの発電方法には次のような長所・短所があると言われています。仮にあなたが電力会社の社長さんとしたら、これからの日本の発電は、どの方法を主力にするのがよいとお考えですか。長所・短所を考えあわせて最もよいと思う発電方法を1つだけ選んで、その番号に つけてください。

発電方法	長 所	短 所	平成12年度日本の発電実績* 100万kWh	1基あたり発電規模 めやす kW
1 火力発電 16.1 16.9	・需要の変化に応じた発電が可能 ・石炭は資源が豊富	・石油・天然ガスは資源の枯渇が心配される ・CO ₂ の排出による地球温暖化が懸念される	669,177	1,000,000
2 水力発電 5.6 5.3	・自然エネルギーを利用 ・水資源の多目的開発が可能 ・CO ₂ の排出が少ない	・国内には新しい適地があまりない ・自然破壊につながる	96,817	300,000
3 原子力発電 21.8 20.7	・安定した大量の電力供給が可能 ・CO ₂ の排出が少ない	・極めて慎重な放射線管理が不可欠 ・安全性確保に厳重な設備が必要 ・放射性廃棄物の処分地が未定	322,050	1,000,000
4 太陽光発電 22.7 19.9	・自然エネルギーを利用 ・CO ₂ の排出が少ない	・大量の電力を得るには広大な敷地が必要 ・夜間や雨天時など発電不能 ・既存発電技術に比べコストが高い	218	50
5 風力発電 4.0 5.8	・自然エネルギーを利用 ・CO ₂ の排出が少ない	・国内には適地が少ない ・風の状況により発電が不安定 ・既存発電技術に比べコストが高い	109	300
6 燃料電池発電 9.3 11.3	・廃熱の利用により高い総合エネルギー効率が期待できる	・技術開発段階 ・既存発電技術に比べコストが高い	74	5,000
7 地熱発電 1.1 0.8	・自然エネルギーを利用 ・CO ₂ の排出が少ない	・適地が限られている ・大きな自然破壊を伴う恐れがある	3,348	50,000
8 廃棄物発電 12.1 12.4	・廃棄物(ごみ)を有効活用	・発電効率が低い	4,728	20,000

問32 原子力は安全だという話や記事を見聞きした時、あなたはどの程度共感できますか。

1	とても共感できる	3.3	2.3
2	少し共感できる	34.0	38.2
3	あまり共感できない	50.3	47.8
4	まったく共感できない	10.3	9.2
5	その他()	1.6	1.7
	無回答	0.5	0.8

問33 人間は、原子力発電を人間や環境に悪い影響を与えないように上手に利用することができると思いますか、そうは思いませんか。

1	できる	24.2	26.5
2	どちらともいえない	61.2	59.1
3	できない	14.2	13.9
	無回答	0.4	0.5

問34 原子力発電所を今後建設することにあなたは賛成ですか反対ですか。

1	賛成	8.9	8.2
2	賛成ではないがやむを得ない	58.9	59.9
3	反対	32.0	31.2
	無回答	0.2	0.7

問37 「原子力発電の安全性について国や電力会社は本当のことを公表していない」という意見がありますが、あなたはどのように思われますか

1	非常にそう思う	23.5	27.7
2	ややそう思う	44.2	45.9
3	どちらともいえない	26.4	21.8
4	あまりそう思わない	4.3	3.0
5	まったくそう思わない	0.9	1.0
	無回答	0.7	0.7

問38 あなたは、原子力発電所で働く労働者といえは何を連想しますか。当てはまるものをいくつか選んでください。

1	恵まれた作業環境で働いている	5.5	4.4
2	危険と引き替えに報酬を得ている	56.3	57.0
3	社会に貢献すると働きがいを感じている	12.7	11.4
4	正規の社員が少ない	9.5	9.9
5	原子力発電所の犠牲者だ	7.3	6.9
6	高い技能をもっている	36.2	34.3
7	放射線被曝の作業環境で働いている	41.9	41.1
8	しかたなく原子力発電所で働いている	8.9	7.2
9	高い報酬を得ている	17.5	11.9
10	地元の人の安定した働き口だ	16.9	16.4
11	その他()	0.9	1.5
12	特にない	7.3	8.2

9 核融合発電 1.7 1.7	・資源が無尽蔵	・実現へのめどが立っていない	-	-
--------------------	---------	----------------	---	---

NA 5.5 5.2

*平成12年度発電電力量：電気事業便覧（平成13年度版）より。太陽光発電、燃料電池発電、廃棄物発電については 各種資料からの平成11年度発電電力量推定値。

問35 あなたは、次にあげる事柄や言葉を知っていますか。それぞれについてお答えください。

	内容や意味を知っている	言葉を聞いたことがある程度	言葉を聞いたこともない	無回答
(ア) プルトニウム	26.9	66.6	6.4	0.1
	27.1	68.9	3.5	0.6
(イ) 高レベル放射性廃棄物	21.1	66.1	12.1	0.7
	22.8	64.3	12.0	0.9
(ウ) 核分裂	22.1	67.8	9.1	1.0
	26.5	64.1	8.4	1.0
(エ) プルサーマル	11.4	45.2	42.8	0.7
	12.4	47.4	39.3	0.9
(オ) 低レベル放射性廃棄物	14.1	60.0	25.1	0.8
	15.0	60.5	23.5	0.9
(カ) 使用済燃料の中間貯蔵	13.0	55.2	30.9	0.9
	14.4	61.4	23.3	0.9
(キ) ウラン	28.6	66.2	4.5	0.7
	30.3	64.7	3.6	1.4
(ク) MOX燃料	5.6	28.6	64.9	0.8
	3.7	27.6	67.9	0.8
(ケ) 高速増殖炉	12.7	54.6	32.0	0.7
	13.0	56.2	30.0	0.8

問39 それでは、原子力発電所の幹部（所長や管理者）についてはどうでしょうか。当てはまるものをいくつか選んでください。

1	サラリーマン	31.1	32.6
2	放射能被曝している	5.6	3.8
3	情報を隠している	32.6	30.3
4	安全に心を砕ている	18.8	17.2
5	責任感がない	12.8	14.7
6	エリート	19.3	18.2
7	優秀な技術者	37.0	36.0
8	地元の人	4.1	2.4
9	責任感が強い	11.3	11.1
10	その他	1.0	2.2
11	特にない	12.5	12.3

問40 原子力発電所の職場では、安全に運転することが最も優先される目標となっていると思いますが、それともそうだとはいませんか。

1	そうだと思う	80.7	76.9
2	そうだとは思わない	19.0	22.1
	無回答	0.4	0.9

問41 原子力発電についていろいろおたずねしましたが、全体としてあなたのお考えに近いものを次の中から1つだけ選んでその番号に をつけてください。

1	安全性には配慮する必要があるが、原子力発電を利用するのがよい。	11.7	12.6
2	安全性には多少不安があるが、現実的には原子力発電を利用するのもやむを得ない。	65.5	64.4

3 どんなにコストが高く、また環境破壊が伴うにしても、原子力発電よりも安全な発電に頼るほうがよい。

	15.2	13.4
4 不便な生活に甘んじて、原子力発電は利用すべきではない	6.6	8.2
	0.9	1.4

問42 原子力発電への賛成意見、反対意見を次にあげました。有益・必要性、無益（有害）・不必要性のそれぞれについて、あなたが納得できるものをいくつか選んでその番号に をつけてください。その他あなたがお考えになっていることがあれば、「その他（ ）」欄にご記入ください。

(ア) 賛成意見について納得できるものをいくつか選んで、その番号に をつけてください。

1	発電を原子力で行うことにより、大切な石油資源を節約できる。	35.3	33.4
2	使用済み燃料を再処理することにより、新たな燃料が得られるので純国産エネルギーを確保できる。	22.9	21.0
3	原子力・火力・水力などエネルギー源の異なる発電方法をバランスよく採用することで、わが国の電力供給の安定化に役立つ。	58.3	61.7
4	火力発電を減らすことができるので、大気汚染問題を抑制でき、地球環境保護に貢献している。	32.3	31.7
5	わずかな燃料で長時間にわたり発電できたり、燃料の備蓄が容易なので、電力供給の安定化に役立つ。	24.6	25.6
6	発電してもCO2(二酸化炭素)を出さないで、地球温暖化の防止に貢献でき		

- る。 29.1 32.4
- 7 日本での原子力発電による現在の発電量を考えると、近い将来に原子力発電に代わる発電方法はない。 15.2 20.8
- 8 日本では原子力発電を開始して以来、大事故はなく安全に運転されている。 7.7 5.5
- 9 高速増殖炉が開発されれば半永久的な電力用エネルギーが確保できる。 8.2 7.9
- 10 今後の発展途上国のエネルギー需要の増大を考えると原子力発電は欠かせない。 16.2 14.7
- 11 その他() 1.7 2.3

(イ) 反対意見について納得できるものをつくつても選んで、その番号に つつけてください。

- 1 廃棄物の処分・処理技術はまだ確立していない。 61.5 63.4
- 2 原子力発電がなくても、電力は十分供給できる。 5.7 3.8
- 3 放射能汚染の恐れがある。 64.7 64.2
- 4 原子力発電は世界的に廃止の傾向にある。 15.7 14.1
- 5 大事故の可能性はゼロではないし、起きた場合の被害が大きすぎる。 63.9 66.6
- 6 原子力発電の安全システムや国、企業等の安全確保に信頼がかけない。 31.7 31.2
- 7 原子力発電の技術開発より、新しいエネルギーの開発と育成に重点をおくべきだ。 26.3 28.6
- 8 原子力発電所の建設を新たに受け入れる地域はない。 24.3 22.6
- 9 放射性廃棄物の処理・処分費用まで含めれば原子力発電のコストは安くない。 15.6 16.3
- 10 国の原子力政策を信頼できない。 20.6 19.5
- 11 運転年数が高い原子力発電所が増えているので、安全性は低下している。 31.9 31.1
- 12 その他() 1.2 1.5

問43 原子力発電の安全確保に関する次のような説明を聞いた時、あなたは安全性に対してどのような気持ちを持ちますか。

(ア)原子力発電所のすぐそばでも、発電所から受ける放射線量は、誰もが土壌や宇宙から受けている自然放射線量の日々の変動幅の中に隠れてしまうくらいごく少なく、測定しても直接とらえることはできない程度ですが、発電所では、常に測定し、異常がないことを確認しています。

- 1 たいへん安心できる 4.9 4.7
- 2 少しは安心できる 37.5 41.7
- 3 あまり安心できない 37.8 33.3
- 4 まったく安心できない 8.4 9.2
- 5 どちらともいえない 10.2 10.1
- 無回答 1.2 0.9

(イ)故障の早期発見、事故未然防止のため種々の方策がとられている。(定期検査や、例えば下記の注*にみられるような安全対策)

- 1 たいへん安心できる 4.2 3.6
- 2 少しは安心できる 36.6 39.1
- 3 あまり安心できない 40.6 37.3
- 4 まったく安心できない 7.7 9.3
- 5 どちらともいえない 9.2 8.6
- 無回答 1.7 2.1

(ウ)故障が発生しても、放射能漏れが起きないように多重防護施設など万全の方策がとられている。

- 1 たいへん安心できる 4.2 3.6
- 2 少しは安心できる 30.9 33.2
- 3 あまり安心できない 43.9 40.9
- 4 まったく安心できない 11.0 12.5
- 5 どちらともいえない 8.5 8.5
- 無回答 1.5 1.3

(エ)事故につながるような恐れが少しでもある時は、直ちに運転を停止するようにしているから安全性は十分保たれている。

- 1 たいへん安心できる 5.2 4.8
- 2 少しは安心できる 31.4 34.0
- 3 あまり安心できない 41.6 39.7
- 4 まったく安心できない 11.2 11.4
- 5 どちらともいえない 9.4 9.0
- 無回答 1.3 1.1

(オ)発電施設は自然災害や戦争、犯罪などによる破壊から守られるよう堅固に作られ、また管理されている。

- 1 たいへん安心できる 5.1 3.8
- 2 少しは安心できる 23.0 25.7
- 3 あまり安心できない 41.5 41.7
- 4 まったく安心できない 18.2 17.6
- 5 どちらともいえない 11.1 9.8
- 無回答 1.1 1.3

(カ)事故がひとたび起きれば大変なことは重々承知している。事故が絶対起きないように万全の努力をしている。

- 1 たいへん安心できる 3.8 4.3
- 2 少しは安心できる 25.5 27.0
- 3 あまり安心できない 45.4 41.3
- 4 まったく安心できない 14.6 14.8
- 5 どちらともいえない 9.9 11.4
- 無回答 0.9 1.2

*注：安全対策の例
 インターロックシステム：たとえば、運転員が誤って制御棒を引き抜こうとしても、制御棒の引き抜きができないようになっていたりなど、誤った操作によるトラブルを防止するシステム。
 フェイルセーフシステム：システムの一部に故障があった場合でも、常に安全状態に向かうという考え方に基づき設計されたシステム。

問44 原子力発電を取り扱う電力会社の対応としていろいろなことが考えられます。これを次にあげます。まず、はじめから終

わりまで途中でやめずに一通り読んでください。

1 会社の基本姿勢 51.3 50.9
 会社のトップも職員も、もし原子力発電所で大事故を起こせば、地域被害にとどまらず日本中の原子力発電を停止する事態となって極端な電力不足におちいり、日本が経済的にはたん破綻するとの危機感を常にもって事にあたる。

2 地域振興(生活・産業基盤の整備) 11.2 11.4
 原子力発電所立地地域の振興のため、公共用施設や産業基盤の整備のための費用を負担する。

3 コストの削減 23.7 20.5
 少しでも電気料金を安くするために、原子力発電にかかるコストを徹底的に削減する。

4 低レベル放射線の管理 45.2 48.2
 発電所周辺や周辺動植物の放射線量を常時測定観察し、科学的に分析してその結果を公表する。

5 事故原因の徹底的究明 66.1 67.3
 放射能が外部に漏れるような事故を起こさないために、小さな事故原因もあいまいに終わらせず、徹底的に原因を究明して結果を公表する。

6 事故の未然防止対策 54.5 59.3
 世界中の原子力発電所で起こった事故や故障の情報を日々収集し、科学的分析を行い、機器の改良やマニュアルの改善に反映させ、事故の未然防止に役立てる。

7 事故時の情報公開 60.2 61.4
 事故が起こった場合にも、その実状と対策の全てを正直に公表する。

8 実務の公開 29.4 28.5
 建設過程の公開をはじめ、公共のマスコミに対して原子力発電所内の取材をいつでも制約なしで受け入れるなど、ありのままの実状を公開する。

9 社員教育 36.1 38.0
 安全に関する教育・訓練はもとより、安心して原子力発電所の運営を任せられる会社であるとの信頼を得るために社員教育を徹底する。

10 地域振興(電気料金割引) 11.1 11.2
 原子力発電の立地地域の人々や企業の電気料金を思い切って大幅に割り引く。

11 マスメディアでの情報発信 29.9 29.1
 テレビ・ラジオ番組、CM、新聞広告などを活用して、原子力発電についての正しくわかりやすい情報を発信し、その安全性を知らせる。

12 広聴活動 13.1 13.3
 広く一般の人々の原子力発電に関する意見を聴取し、原子力発電への取り組みに反映させる。

13 地域共生（教育文化的支援）

9.4 9.8

原子力発電所立地地域のボランティア活動や教育・文化事業に参加するとともに、経済的・人的支援を行い、地域との共生をはかる。

14 見学会

19.8 19.8

原子力発電所のような様子を実際に見て理解してもらうために見学会を実施したり、原子力発電についての科学的知識を広めるためのイベントなどを実施する。

15 都会にPR館

11.9 11.9

遠方に出かけなくてもすむように、都会に気軽に訪れて楽しく原子力発電についての知識も得られる魅力あるPR館を作る。

それでは、これらの項目のうちどれに共感できますか。共感できるものを5つ選んでください。

問45 電力会社が電気を作るうえで、次にあげたことについてどの程度重視すべきだと思いますか。10枚のシールを重視すべきだと思う程度に応じてそれぞれに配分して、枠内に貼ってください。シールは10枚すべて使いきってください。

1 電力不足による停電を起こさないように、余裕のある発電施設をもつ

平均枚数 1.77枚 1.80枚

2 発電のコストを徹底的に削減して電気料金を安くする。

平均枚数 1.21枚 1.11枚

3 地球温暖化の原因となるCO₂(二酸化炭素)の排出が多い発電方法は採用しない。

平均枚数 1.93枚 1.91枚

4 発電のコストが高くついたり、発電量が不安定であっても、自然エネルギーを利用する発電方法を採用する。

平均枚数 1.47枚 1.50枚

5 石油ショックなど国際情勢の影響を受けにくく、安定して電力を供給できる発電方法を採用する。

平均枚数 1.46枚 1.45枚

6 大事故が起きた場合に、人や環境に重大な影響を及ぼす危険性のある発電方法は採用しない。

平均枚数 2.14枚 2.22枚

無回答 0.2% 0.5%

問46 今年の夏、東京電力はテレビやラジオ、インターネットなどで「でんき予報」として、翌日または当日に予想される最大電力と供給力をお知らせしていました。あなたは「でんき予報」を実際に見たり聴いたりしたことがありますか。最もあてはま

るものを1つだけ選んでください。

1 「でんき予報」をしばしば見たことがある（聴いたことがある） 4.2 38.4

2 「でんき予報」を見たことがある（聴いたことがある） 9.9 31.1

3 「でんき予報」を知っていたが、見たことはない（聴いたことはない） 25.1 11.6

4 「でんき予報」を知らない 59.9 17.4
無回答 0.9 1.4

問47 あなたは、今年の夏に首都圏で電力不足から大規模な停電が起こるおそれがあったことを覚えていますか。

1 よく覚えている 42.0 67.1

2 少し覚えている 21.1 15.0

3 聞いたことがあるような気がする 17.8 10.8

4 覚えていない 18.1 6.1

無回答 0.9 1.0

付問1【問47で「よく覚えている」「少し覚えている」「聞いたことがあるような気がする」を選択した人にお聞きします。】あなたは、首都圏で電力不足から大規模な停電が起こるおそれがあると聞いたときに、実際に起こる可能性はどのくらいだと思いますか。

N=862, 990

1 絶対に起こると思った 3.5 3.8

2 多分起こると思った 16.1 18.4

3 起こるかどうかわからないと思った 44.0 43.4

4 多分起こらないと思った 32.5 30.3

5 絶対に起こらないと思った 2.0 2.8

無回答 2.0 1.2

付問2【引き続き問47で「よく覚えている」「少し覚えている」「聞いたことがあるような気がする」を選択した人にお聞きします。】

あなたは、首都圏で電力不足から大規模な停電が起こることをどの程度心配していましたか。

1 非常に心配していた 4.3 5.5

2 かなり心配していた 10.4 16.5

3 少し心配していた 43.9 47.3

4 ほとんど心配していなかった 32.5 23.5

5 まったく心配していなかった 5.2 4.5

無回答 3.7 2.7

問48 今年の夏に首都圏の電力不足を招いた最大の原因は何だと思いますか。1つだけ選んでください。

1 石油や天然ガスなどの火力発電の燃料が不足した 1.9 1.9

2 電気の使用量が昨年よりも大幅に増えた 22.0 12.2

3 原子力発電所が運転を止めていた 37.6 61.8

4 水不足で水力発電所が運転できなかった 0.8 0.8

5 毎年夏は電力が不足しがちになる 14.5 10.1

6 新しい発電所が計画どおりでできなかった 0.8 1.1

7 わからない 15.8 7.8

無回答 6.8 2.2

問49 首都圏の電力不足に関連して、あなたが感じたりお考えになったことがあれば、なんでもご自由にお書きください。(回答略)

問50 最近ではいろいろな分野で自由化や規制緩和が言われていますが、あなたは「電力の自由化」について知っていますか。1つだけ選んでください。

1 知っている 14.8 15.0

2 少し知っている 17.4 18.2

3 聞いたことがある 35.1 32.4

4 聞いたことがない 31.2 32.7

無回答 1.5 1.7

問51 「電力の自由化」が進められると、どうなると思いますか。思い当たるものをいくつでも選んでください。

1 通信のように新しい事業者がどんどん進出する 33.1 33.2

2 一般家庭の電気料金が安くなる 36.5 35.6

3 工場など大口利用者の電気料金が安くなる 20.6 19.1

4 窓口対応など電力会社のサービスが良くなる 18.5 17.3

5 いろいろな料金メニューから自由に選べるようになる 32.7 32.4

6 コストが優先されて安全対策があるそかになる 30.4 32.8

7 コストが優先されて安定供給があるそかになる 15.3 17.2

8 コストが優先されて環境問題があるそかになる 27.4 29.4

9 水力、火力、原子力、太陽光、風力などの発電のバランスが変わってくる 33.0 35.5

10 新しい発電方法ができてくる 27.1 26.6

11 何も変わらない 1.4 1.2

12 わからない 12.5 14.3

付問 【問51で「9.水力、火力、原子力、太陽光、風力などの発電のバランスが変わってくる」を選択した人にお聞きします。】では、どのように変わるとお考えですか。思い当たるものをいくつでも選んでください。N=351, 378

1 水力発電が減る 17.4 14.0

2 水力発電が増える 10.8 10.8

3 火力発電が減る 17.4 22.5

4 火力発電が増える 20.2 18.5

5 原子力発電が減る 21.4 25.4

6 原子力発電が増える 31.6 30.4

7 太陽光発電や風力発電が減る 6.6 8.7

8 太陽光発電や風力発電が増える 62.7 60.1

9 その他 () 2.0 6.1

問52 旧ソ連で十数年前に起こったチェルノブイリ原子力発電所事故のことを覚えていますか。

1 よく覚えている	51.5	56.5
2 少し覚えている	28.5	27.0
3 聞いたことがあるような気がする	10.9	7.8
4 覚えていない	8.5	8.4
無回答	0.7	0.3

問53 1年ほど前に発覚した東京電力による原子力発電所のひび割れなどのトラブル隠しのことを覚えていますか。

1 よく覚えている	46.1	60.7
2 少し覚えている	30.1	24.0
3 聞いたことがあるような気がする	13.5	9.2
4 覚えていない	9.7	5.8
無回答	0.6	0.3

問54 1~2か月前に、アメリカ北東部とカナダの東部で大規模な停電があったことを覚えていますか。

1 よく覚えている	66.9	74.1
2 少し覚えている	18.6	14.1
3 聞いたことがあるような気がする	7.8	6.4
4 覚えていない	6.0	5.2
無回答	0.7	0.3

問55 たいていの人は、他人の役に立とうとしていていると思いますか、それとも自分のことだけに気を配っていると思いますか。

1 他人の役に立とうとしていている	31.4	26.6
2 自分のことだけに気を配っている	54.4	56.7
3 その他	13.8	15.9
無回答	0.5	0.8

問56 他人は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか。それともそんなことはないと思いますか。

1 利用しようとしていると思う	28.4	28.6
2 そんなことはないと思う	60.8	58.5
3 その他	10.5	12.6
無回答	0.3	0.3

問57 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、用心するにこしたことはないと思いますか。

1 信頼できると思う	22.3	20.7
2 用心するにこしたことはないと思う	69.2	68.1
3 その他	8.1	10.9
無回答	0.4	0.3

F 1 あなたの性別をお聞かせください。

1 男性	51.4	50.2
2 女性	48.6	49.8

F 2 あなたのお生まれと年齢をお聞かせください。

18~29歳	19.8	20.8
30~39歳	20.1	18.2
40~49歳	16.9	18.9
50~59歳	20.6	19.0
60~69歳	15.0	14.8
70~79歳	7.6	8.2

F 3 あなたが最後に卒業された学校はどこですか。(中退・在学中は卒業とみなします。)

1 小学校・中学校卒, 旧小・旧高小卒	8.2	8.8
2 高校卒, 旧制中学卒	44.9	37.0
3 専修学校卒(通称専門学校)	8.8	12.5
4 大学院・大学・短大・高等専門学校卒以上	36.4	40.4
無回答	1.7	1.3

F 4 あなたのご職業は何ですか。(下の該当する項目に をつけてください。)

自営業	1 農林漁業	0.1	0.5
	2 商工サービス	9.4	6.2
	3 自由業	4.4	5.2
勤め人	4 管理職	6.6	6.8
	5 専門・技術職	13.2	12.2
	6 事務職	7.5	8.7
	7 労務・技能職	8.5	6.3
家族従業員	8 農林漁業	-	0.2
	9 商工サービス業	1.7	1.1
	10 自由業	0.6	1.0
無職・その他	11 主婦(無職)	21.8	20.2
	12 主婦(パートに出ている)	9.3	10.1
	13 フリーター	3.1	3.3
	14 学生	5.0	6.8
	15 その他の無職	7.9	10.7
	無回答	1.0	0.8

ご協力どうもありがとうございました。